

教養科目授業改善のための学生へのアンケート調査

— 学生による授業評価 —

— 平成7年度第1学期調査の結果と分析(予報) —

新潟大学大学教育開発研究センター

吉村尚久・小林昌二・長谷川 彰・竹内照雄・檀上篤徳
山崎一生・苅部恒徳・橋本 修・土屋千尋

A Preliminary Report of the Class Evaluation Questionnaire and its Findings

Research Institute for Faculty Development, Niigata University

Takahisa Yoshimura, Shoji Kobayashi, Akira Hasegawa, Teruo Takeuchi, Atsunori Danjo,
Issei Yamasaki, Tsunenori Karibe, Osamu Hashimoto and Chihiro Tsuchiya

A questionnaire for improving class quality was conducted over all subjects of general education in the first term of this school year, following the trial of class evaluation questionnaire conducted at the end of the last school year. Items of the questionnaire were adjusted to different class styles; lecture, exercise, experiment, practice and training. But three common points encompassed by the questionnaire are ①difficulty in achievement in class, ②students' consciousness and attitude toward learning, and ③students' rating of teaching.

Many students pointed out that lack of basic related knowledge is the reason for difficulty in achievement in class. The most serious problem for them is deficiency in reviewing and preparing for a lesson. More than 60% of students have no study hours at home for a regular lecture class. This fact demonstrates the shortcoming of the credit system.

Key words: Questionnaire, Students' evaluation, Improvement in class quality, General education, Faculty development

1. まえがき

新潟大学大学教育開発研究センター（以下、大教センターと略記）では大学教育の改善・教育方法の向上開発のための具体的方策について種々検討しているが、その一つとして個々の授業科目について授業改善のためのアンケート調査（学生による授業評価）に取り組んでいる。平成6年度学年末に教養科目の講義形式の授業を対象として授業改善のための学生へのアンケート調査を試行的に行った。その結果は大教センター「大学教育研究年報」第1号に報告したとおりである。

そして、教養科目担当の教員にもアンケート調査を行い、「学生による授業評価」について考え等を聞いたところ、試行結果についての感想等も含めて多数の意見が寄せられた。その概要は大教センターニュース第1号に報告したが、「学生による授業評価」が授業改善のための参考になるとして実施を支持する意見が多かった。また、各学部意見をもとめるところでは実施結果の活用方法について意見が寄せられた。

今年度は、以上の意見を踏まえて講義形式の授業だけでなく、演習・実験・実習・実技科目を含めた教養科目全体にわたって「学生による授業評価」を行うこ

とにした。授業形式の違いに応じて質問項目を変える必要があるため、プロジェクトチームを設置してアンケート項目を検討した。ある程度整理できたところで、大教センター研究開発部門及び教養教育実施部門の会議で検討の上、全学教養教育委員会に報告し、授業改善のためのアンケート項目を決定した。幸いにして大学改革推進等経費に要求していた「学生による教養科目の授業評価導入の調査」がカリキュラム改革調査研究経費として認められたので、スムーズに実行に移れた。

この報告は第1学期（前期）のみの結果であり、実施した授業科目の少ない科目群もあって全体の傾向を見るには資料不足であるので中間報告的な意味で予報とした。平成7年度全体の取りまとめは、第2学期（後期）の結果も合わせて、本年6月頃に本報告として公表する予定としている。

アンケートの集計結果は、個々の授業についてのデータ及び意見は授業担当者には通知するが、大教センターとして公表することは一切しないことにした。ただ、分析するための一般的傾向、系列や科目群についての集計データ等は報告として公表することになっているが、前述の理由から各科目群等についての細かい資料は掲載していないので、必要な場合は本報告を参照頂きたい。実施結果の活用方法についてはあとがきで若干触れることにしたい。

データの整理は竹内と企画室職員が当たり、この報告は筆者らが系列及び科目群ごとの集計データを検討の上、分担して執筆した。

2. アンケート項目

アンケート調査の質問項目は、昨年度と同様、共通の観点として、①授業全体に対する受け止め方、②学生自身の受講態度、③授業のやり方・内容等を三つの柱として構成した。授業の受け止め方では難易度、難しい場合の理由、受講結果等を含めた。授業は教員と学生の双方向的営みであることから学生自身の自己評価的な意味で受講態度の項で出席状況、学習の取り組み等の質問項目を設けた。授業のやり方・内容等には技術的な点や教育環境等も含めた。

しかし、アンケートは個々の授業科目について行うことにしてあるので、具体的な質問項目は授業科目の形式に応じて適切な内容を用意した。すなわち、教養科目には授業形態・性格の違う科目として講義科目、演習科目、実験科目、情報処理実習科目、外国語科目、体育実技科目及び日本語科目（留学生対象）の7種類があるので、それぞれの科目について質問項目と回答用紙を作成した。

回答は選択肢及び5段階評価（＋）によるマークシート方式で、その他に良い点・悪い点・改善策等について自由に記入してもらった。授業形式の違いによる科目別の共通質問の他に個別授業で担当教員が学生に聞きたい質問を5項目まで付け加えられるようにした。追加質問は別紙として用意したが、回答欄はマークシートの回答用紙に予め印刷しておいた。

回答を無記名とするか記名とするかは議論が分かれたところであるが、学生に抵抗無くアンケートをスムーズに実施するため無記名とした。

3. アンケートの実施状況

今年度は教養科目の全てを対象として授業評価を行った。第1学期で終了する科目は全てを対象とし、アンケート調査は第1学期定期試験直前の授業（講義）最終日に15分程度の時間を取って担当教員の手で実施したが、一部授業最終日以外の日に実施した科目もある。

実施状況の概要は別表（195ページ）の通りである。

4. アンケート集計結果と分析

4.1. 講義科目

4.1.A. 総合科目

【人文・社会科学系総合科目】

人文・社会科学系総合科目の数は、今回のアンケートでは人文科学系3科目、社会科学系4科目で、自然科学系の総合科目14科目に比べて少ない。また、その回答数も人文科学系で196名、社会科学系で325名であり、自然科学系の1,860名に比べると格段に少ない。従って、ここでは、人文科学系総合科目と社会科学系総合科目を一括して取り扱うこととし、社会科学系総

合科目2科目のみであった昨年度第2学期の調査や人文科学科目群と社会科学科目群の講義科目と比較することとしたい。

以下、(1)難易度、(2)出席状況、(3)予習・復習、(4)授業の内容などから問題の所在を見ていくが、総合科目中の特色から見ていく。講義の選択理由は次のとおりである。

	概要から興味	一般教養として	単位簡単
人文系総合	84.2%	13.3%	3.1%
社会系総合	67.4	20.3	8.9
自然系総合	63.5	10.3	7.7
人文科目群	72.1	9.1	9.8
社会科目群	52.2	16.7	5.2
自然科目群	41.2	9.8	5.9

「講義概要から内容に興味をもって」とした選択理由が人文科学系総合科目で84.2%と高く、人文科学科目群の72.1%を12ポイントも超えている。社会科学系総合科目においても、また自然科学系総合科目においてもそれぞれ社会科学科目群、自然科学科目群よりも20ポイント以上高い。「一般教養として必要」との選択比率も概して高く、教養科目としての成功度がよいことを考えさせる。

(1) 難易度

質問(4)の講義の難易度では、わかりやすいというプラスイメージ①「全体としてわかりやすかった」と②「全体としてはかなりわかりやすかった」は、人文科学系総合科目が69.4%で人文科学科目群の71.2%とほぼ同様にわかりやすいとする反応が表われている。社会科学系総合科目では68.0%で、社会科学科目群の58.0%を、自然科学系総合科目57.0%では、自然科学科目群44.3%を、それぞれ10ポイント以上も上回わり、単に単位を取得しやすいとする事前の選択理由が1.8～3.7ポイントであることを考えると、受講後結果においてそれをはるかに超えた、概してわかりやすい、という点でプラスイメージを得ている特徴が指摘できる。

上記の点は、昨年度の調査が科目群の講義科目よりも概してわかりにくいとした者が多かったことに対して、今年度第1学期はむしろわかりやすいとする者が

多く、大きな変化であり、総合科目にとっては嬉しいデータとなっている。

困難理由での「講義内容が高すぎる」、「基礎知識が不足」、「興味を持って勉強する気になれなかった」などのマイナス点はどうか。

	内容が高すぎる	基礎知識不足	興味持てず
人文系総合	6.6%	50.5%	7.7%
社会系総合	10.2	38.5	12.6
自然系総合	22.0	38.1	15.4
人文科目群	12.5	34.8	9.9
社会科目群	11.0	38.1	15.7
自然科目群	25.5	39.5	10.8

講義内容は系列の講義に比べて、高すぎるとするのはやや少ない。基礎知識不足は人文科学系総合科目において著しいが、その割には、内容が高すぎる、とするものは極端に少ない。興味持てず、とするものも人文科学系総合科目、社会科学系総合科目では、それぞれの系列分野の科目群に比べて少ない数値である。

昨年度第2学期の調査では社会科学系総合科目が「講義内容が高すぎる」ことをそれほど感じさせなかったが、実際には「基礎知識の不足」を実感させる授業であった、と推測されたが、今回は社会科学系総合科目にその傾向がなく、人文科学系総合科目にそれが表われている。

(2) 出席状況

授業の出席状況について、授業の選択理由において「講義概要から内容に興味をもって」で科目選択をしたものとの関係を参考に表にした。

	概要から興味	全回出席	3分の2出席	出席計
人文系総合	84.2%	69.9%	24.0%	93.9%
社会系総合	67.4	61.8	26.5	88.3
自然系総合	63.5	62.2	28.0	90.2
総合全体	65.8	62.8	27.4	90.2
人文科目群	72.1	71.1	20.6	91.7
社会科目群	52.2	64.8	22.9	87.7
自然科目群	41.2	71.0	21.8	92.8

人文科学系総合科目は、授業選択における興味を理由にしたものが多く、また全回出席と3分の2程度出席の和も高い。関連が推定できるかもしれないが、問

題は多面的なのでなお検討が必要である。

(3) 予習・復習

この問題のデータとして、まず質問(8)「講義に欠席又は遅刻したとき、どうしたか」の回答選択肢⑤、質問(9)「講義で理解できない箇所が出てきた時、どうしたか」の回答選択肢⑤、そして質問(10)「自習としてどのようなことをしたか」の回答選択肢④の「特に何もしなかった」のマイナスイメージの回答率を、総合科目とその系列分野の科目群とを比較する表を以下に掲げた。

	質問(8)⑤	質問(9)⑤	質問(10)④
人文系総合	35.7%	42.9%	47.4%
人文科目群	37.3	52.7	60.6
社会系総合	52.0	57.8	65.8
社会科目群	30.9	51.7	62.9

人文科学系総合科目は、いずれにおいても「特に何もしなかった」というマイナスイメージは低く、質問(10)においてそれが顕著に表われている。逆に社会科学系総合科目では、そのマイナスイメージ値が高く、質問(8)において顕著であった。参考までに自然科学系総合科目の場合を比較すると、なお社会科学系総合科目以上に、「特に何もしなかった」とする者の比率が低下している（これは昨年度の調査で既に指摘されていた）。

自然系総合	41.9%	56.8%	70.6%
自然科目群	30.5	44.6	64.2

授業の内容については、概してわかりやすさというプラスイメージが高いことについて述べたが、「特に何もしなかった」とする予習・復習など自習率の低下を伴っていることをどう考えたらよいのか、問題を提起しているように思われる。

(4) 授業の内容

以下においては、人文科学系・社会科学系・自然科学系の各総合科目を区別したデータがまだ出ていないので、それら総合科目を一括した数値について見ておく。

講義の主題・テーマの明確さでは、他の科目群の講義科目同様に66.3%のプラスイメージがあるが、数値

としては最も低い。講義内容・説明の体系性では、54.9%とプラスイメージが過半を超えているが、講義科目の中で最も低い。概念や理論のわかりやすい説明では、51.7%でこれも過半を超えているが、自然科学科目群と同様に低い。興味ある内容という点では最も低い自然科学科目群の49.1%を超えて、61.5%であるが、なお人文科学科目群の70.6%には及んでいない。シラバスのとおりに進んだかでは55.0%であり、最も低い社会科学科目群の51.2%を超えているが、人文科学科目群の64.9%や自然科学科目群の57.9%には及ばない。各回の授業内容の量的な程度については、54.4%のプラスイメージを回答しているが、人文科学科目群の64.4%には及ばないが、社会科学科目群の49.8%や、自然科学科目群の48.1%よりも高い数値を示している。教員の話し方では54.1%の者がプラスイメージをもっているが、人文科学科目群が72.0%であることを見ると、社会科学科目群の53.0%と同様に高くない。黒板の使い方のプラスイメージは33.8%で自然科学科目群の45.5%に比べて低い。教材の適切な使用では、人文科学科目群の66.7%より低い54.0%ではあるが、社会科学科目群の46.4%よりもよい。学生の反応をみながらの授業では31.6%のプラスイメージであり、これは他の授業科目では40%を超えており、最も低いものとなっている。教員の熱意では、64.7%がプラスイメージの評価を下しているが、講義科目のなかでは最も低い。学生に質問を促し意見に耳を傾けていたかというプラスイメージも31.3%で最も低い。学生の考え方が培われたり、得るところがあったかという質問では、55.5%の者がプラスに答えており、62.1%の人文科学科目群には及ばないが、自然科学科目群の45.4%、社会科学科目群の51.3%よりも高いことが注目される。

【自然科学系総合科目】

自然科学系総合科目は今年度は昨年度より開講科目数がほぼ倍増した。このためか、今年度は昨年度のものとは異なった結果が出ている。ここでは昨年度のアナウンス結果と比較し、開講科目数を増やしたことに對する学生の反応を検討してみることにする。

自然科学系総合科目は本年度第1学期に14科目が開講された。聴講学生数は3,043名であり、そのうち、

1,860名の学生から回答が得られた。単純に比較すれば、61%の回答率であるが、これらの科目で実際に評価を与えられた学生は2,529名である。残りの学生は途中で聴講を放棄したと見られるが、試験直前でのアンケートであることを考えると実質的な回答率は73%であると考えられる。この比率は人文科学系総合科目の87%には及ばないが、社会科学系総合科目の58%よりも高い数値を示している。また人文科学科目群の講義科目72%、社会科学科目群の講義科目の71%を見ると、この値はほぼ平均的なものとも見られるが、自然科学科目群の講義科目の83%から見ると明らかに低い数値を示している。自然科学系総合科目は自然系の科目ではあるが、学生の出席傾向としては自然系というより、総合科目という方に比重があると見ることもできる。昨年度は単純な回答率が50%であり、回答率は昨年度よりも上がっている。

アンケートの回答について見てみると、一般的な質問での講義の選択理由は「内容に興味をもった」が最も多く64%である。次いで、「時間割の関係」13%、「一般教養として必要」10%、「指定されていた」8%、「専門との関連で必要」7%と続く。昨年度のアンケートでは「指定されていた」が32%あったが、今年度から自然科学系総合科目の開講科目数が増え、医・歯・農学部で開講している自学部向けの総合科目の全体での比率が減ったためと考えられる。このことから選択理由も他系列の総合科目と似た傾向になってきていると言える。

しかし一方、難易度は「全体として分かりやすかった」17%、「全体としてはかなり分かりやすかった」40%、「全体としてはかなり分かりにくかった」31%、「全体として分かりにくかった」12%であり、昨年度のアンケート結果よりむしろ難しいとの回答が増えている。

困難理由は「基礎知識が不足」38%、「自分の勉強・努力が不足」26%、「程度が高すぎる」22%、「内容に興味を持てず、勉強する気になれなかった」15%の順である。これも複数回答可であるが、昨年度と比較すると高い傾向にあり、特に「程度が高すぎる」については昨年度の16%に比べて高くなっているのが目立つ。

受講結果についてのプラス評価の項目については

「教養としての知識・考え方が得られた」31%、「この分野の学問に対して関心が深まった」26%、「興味を持っていた内容に関心が深まった」21%、「体系的知識が得られた」13%、「専門の準備として役立った」6%であり、他方マイナス評価の項目である「特に何も得られなかった」は18%もある。昨年度の「特に何も得られなかった」は12%であったことなど比較すると、全体としてプラス評価が減り、マイナス評価が増えていることが分かる。

出席の様子は、「ほぼ全回出席した」62%、「2/3くらいは出席した」28%、「1/2くらいは出席した」7%と続く。この数値は昨年度より良く、前述した今回のアンケートの回答率が昨年度より良いことと符合する。このことから自然科学系の総合科目は昨年度より確かに出席は良かったと言える。

一方、学生の勉学の様子についての回答を見ると、講義に欠席あるいは遅刻したとき、「特に何もしなかった」42%、講義で理解できなかった箇所が出てきたとき、「特に何もしなかった」57%、自習として、「特に何もしなかった」71%であり、この数値は昨年度よりむしろ多くなっている。難しいという回答が増えているにも関わらず、むしろ勉強はあまりしなくなったと言える。

授業の内容については、「授業の主題・テーマが明確であったか」、「体系的であったか」、「興味深かったか」、「シラバス通りに進められたか」、「授業内容の量は適切であったか」、「教員の話し方は適切であったか」、「教材は適切であったか」、「教員の熱意を感じたか」、「得るところがあったか」の項目についてはプラス評価が過半数を超えており、授業内容については概ね良い評価をしている。

他方、「わかるように説明がされたか」、「黒板の使い方は適切であったか」、「学生の反応を見ながら進めたか」、「学生の意見に耳を傾けようとしていたか」についてはプラス評価が過半数を割っており（マイナス評価はそう多くない）、授業の進め方の技術的側面については必ずしも良い評価を得ているとは言えない。

これらの項目については昨年度と大きな違いはないが、「興味深かったか」の項が昨年度より、少し減っ

ているのが目立つ。

このようなアンケート結果を見ると、全体的には、昨年度より自然科学系総合科目の学生評価は下がったとも考えられる。しかし、これは自然科学系総合科目は開講科目数が増えたことにより、自然科学系の総合科目が一般化し、より多くの学生が自然科学系総合科目を受講するようになった結果、全体として学生から見た自然科学系総合科目の位置づけが変わってきたためではないだろうか。その意味では、昨年度のアンケートと単純に比較して、良し悪しをいうべきものではないかもしれない。選択理由や出席の状況を見ると、学生は従来の自然系科目とは違った受講態度で臨んでいる。この学生の受講姿勢の変化について対応の検討が今後必要であろう。しかし一方このアンケート結果は自然科学科目群の科目の平均と比較すると、むしろ良い評価結果を得ており、自然科学科目群の科目を減らして自然科学系総合科目を増やしたことは自然系科目全体としては、よい方向であったと言える。

4.1.B. 人文科学・社会科学科目群

以下に、人文科学科目群、社会科学科目群の講義科目の特徴についてまとめるが、ここではまだ第1学期だけのデータであることから、昨年平成6年度第2学期の調査段階の視点であった(1)授業の難易度、(2)出席状況、(3)予習・復習、(4)授業の内容の4点の問題についてまとめ、これらの点に関していささかの考察を加えたい。

なお、昨年度調査が第2学期分のデータであり(以後括弧内の数字)、今回は新生が75.3%を占める第1学期分のデータであることをまず確認しておきたい。

【人文科学科目群】

人文科学科目群の学系とその講義科目数とアンケート回答者数は次のとおりであった。

	講義科目数	回答者数
哲学・思想史系	7科目	649人
心理学系	6	615
文学系	8	670
歴史学系	8	802
美術系	3	165

音楽系	4	443
人文科学全体	36	3,344

(1) 授業の難易度の問題

質問(4)の難易度における回答選択肢①「全体として分かりやすかった」としたものが32.7% (44.7%)で、社会科学科目群の18.6% (28.5%)、自然科学科目群の12.1% (17.9%)に対して相当高い数値を示している。また、回答選択肢②の「分かりにくい点もあったが、全体としてかなり分かりやすかった」が38.5%あった。視点を変え、回答選択肢③「分かりやすい点もあったが全体としてかなり分かりにくかった」(以下「大体困難」と記す)が20.5%と回答選択肢④「全体として分かりにくかった」(以下「全体困難」と記す)8.3%との数値の和を見ると、28.8% (23.6%)で、社会科学科目群の41.7% (27.8%)、自然科学科目群の55.6% (41.2%)よりも相当に低い。

従って、人文科学科目群では、社会科学科目群や自然科学科目群と比較して、授業内容を分かりやすいと思ひ、あまり困難とは感じていない受講学生が多く、逆に困難と感じている者は、相対的に少ないものの、途中で止めた者を除くと4人に1人強の割合でそのように感じながら最後まで受講していた姿が浮かんでくる。

なお「わかりやすい」という括弧内の前年度の「調査」の数値より、今回の数値がそれぞれ相当に低く、また「困難」度において相当高いのは、第1学期と第2学期の差として見ておく必要がある。そのように見て間違いないとすると、新生の多い第1学期の授業では、やはり直ちにわかりやすい状態で大学の授業が始まったとはいえ、難しいと感じる者の多いことに留意する必要性を示している。この点は後述のように第1学期には出席率がよいことにも反映している。これは人文科学科目群以外にも共通する。

しかし、こうした人文科学科目群のデータも学系によって大きな差が見られるので、学系別に「全体としてわかりやすかった」32.7% (A)と、大体困難と全体困難との数値の和28.8% (B)を掲げよう。

	(A)	(B)
哲学・思想史系	13.4%	50.5%
心理学系	41.6	19.3
文学系	28.2	29.8
歴史学系	27.4	29.4
美術系	65.5	6.0
音楽系	52.4	15.6
人文科学全体	32.7	28.8

各学系について、人文科学科目群全体の数値を境に「分かりやすい」、「困難でない」という方に属するのは美術系を1番にして、音楽系、心理学系が続き、逆に「分かりにくく」、「困難である」方に位置するのは、哲学・思想史系で、続いて文学系、歴史学系の順である。哲学・思想史系は、自然科学科目群の平均値に近い。その対局に美術系・音楽系という芸術関係の学系があり、学系ごとに多様な色合（この点はなお出席状況を視野に入れて後でもう一度取り扱う）を示している。

次に、今回の人文科学科目群の難易度に関する全体的特色を計る上では次の点が注目される。

質問(5)における「授業でわかりにくい点が出てきた理由は何だと考えますか」の回答選択肢⑤「内容に興味を持たず、勉強する気になれなかった」とした者が、9.9% (7.1%) であり、質問(6)の「受講の結果、どのようなものが得られましたか」の回答⑥「特になにも得られなかった」とした者は、11.5% (9.0%) であったことが注目される。その数値は、昨年度第2学期の「調査」より微増しているが、社会科学科目群ではそれぞれ15.7% (11.6%)、18.9% (12.8%) であり、また自然科学科目群で各10.8% (8.0%)、21.6% (15.5%) とあり、これらにおいても「昨年度調査」より2.8%~6.1%ほどの微増が見られ、また「昨年度調査」と同様に社会科学科目群・自然科学科目群と比べて、その差はそれほど大きいとはいえないものの、最も低く表われていることが注目される。

昨年度の「調査」でも、なぜそのように「分かりにくい」が最も低く表われるのか、そこでの問題は何かを考察した。その前者の理由としては、「指定」された受講者や、やむを得ず選択をした者が少なかった点にあるとした。今回も先ずその点の確認から始めたい。

第1に、選択理由の回答選択肢②「指定されていた」は、わずかに0.9% (0.3%) で社会科学科目群の5.5% (1.1%)、自然科学科目群の25.5% (23.2%) と比べて極端に低い。回答選択肢⑥「時間割の関係において選択せざるを得なかった」は、13.3% (13.6%) で、社会科学科目群の15.5% (20.9%)、自然科学科目群の19.8% (18.7%) に比べて相当に低く、昨年と事情に変わりはない。言い方を替えると、指定と時間割の都合という主体的選択の契機を持たず受講を行っている者は、自然科学科目群で45.3%、社会科学科目群で21.0% もいるのに対して人文科学科目群では、14.2% にとどまっているのであり、やはり主体的な選択という契機を持って受講している者の比率が高いのである。むしろ、ここでも途中で受講を取り止めた者の数値が反映されていないことを断っておきたい。

さて人文科学科目群全体としての困難理由で「内容に興味を持たず、勉強する気になれなかった」(A) とした者が9.9% (7.1%)、受講の結果「特に何も得られなかった」(B) とした者は、11.5% (9.0%) であったことは、既に述べたが、これを次のように学系別に見てみると、心理学系と美術系において特に低く、逆に哲学・思想史系と文学系において平均以上に高く表われている。

	(A)	(B)
哲学・思想史系	13.7%	17.7%
心理学系	6.8	5.9
文学系	11.2	12.7
歴史学系	9.4	13.2
美術系	5.5	3.6
音楽系	9.0	8.6
人文科学全体	9.9	11.5

以上の難易度の数値をもとに出席状況の問題に考察を進めよう。

(2) 出席状況

人文科学科目群の授業の出席状況という点では、質問(7)「どのくらいこの講義に出席しましたか」の回答選択肢①「ほぼ全回出席した」者が、71.1% (59.8%) であり、社会科学科目群の64.8% (55.2%) を上回り、自然科学科目群の71.0% (58.3%) とほぼ等しく高い

数値を示している。

なお、殆ど出席しなかったという④の回答選択肢の数値を見ることは、アンケートが最後の授業に出席していた者から得ているため、あまり意味のある数値を期待できない。

以上のように人文科学科目群の出席状況は、かなりよいと言えるが、その学系別の状況を授業の「分かりやすい」とした数値と対応させたものを次に掲げる。

	「ほぼ全回出席」「分かりやすい」	
哲学・思想史系	72.1%	13.4%
心理学系	76.7	41.6
文学系	66.7	28.2
歴史学系	72.6	27.4
美術系	49.1	65.5
音楽系	74.3	52.4
人文科学全体	71.1	32.7

以上のように哲学・思想史系では、「ほぼ全回出席」が70%を超えているが、しかし「わかりやすい」としたものは、平均以下の文学系のおお半分以上の数値にとどまる。これに対し、美術系では、他の学系が70%をこえる「ほぼ全回出席」の状況にも拘らず、50%を割り、他方で3人に2人が「わかりやすい」と回答しているのである。

次に「昨年度調査」でも取り上げた、出席率の高いことでは共通するものの、いくつかの点で両極を示した心理学系と歴史学系との比較を今回も行う。括弧内は前年の数値である。

	心理学系	歴史学系
出席状況：3分の2以上出席	93.6% (88.2)	93.8% (91.3)
選択理由：やむを得ず選択	3.6 (4.0)	15.5 (29.6)
難易度：大体と全体困難	19.3 (2.8)	29.4 (45.1)
困難理由：程度が高すぎる	11.9 (3.1)	12.2 (18.9)
：する気になれず	6.8 (4.7)	9.4 (14.9)
受講結果：何も得られず	5.9 (2.1)	13.2 (20.1)

心理学系と歴史学系との対極の特徴は、括弧内における「前年度調査」の数値ほど今年度第1学期では極端でなくなっているが、やむを得ず選択した者の落差はなお大きく3.6% (4.0%) と15.5% (29.6%) であり、大体困難と全体困難の差もある。

する気になれなかった者が約1.4倍 (約3倍)、何も得られなかった者の比率が約2.2倍 (約10倍) に縮まり、両者の落差が相当に緩和されているのは「程度が高すぎる」とする受け止め方が、ほぼ同等になっていることに関係しているようだ。

次に、これと同じく、美術系と音楽系について見ながら、心理学系、歴史学系と併せて見ておこう。

	美術系	音楽系
出席状況：3分の2以上出席	80.6%	95.5%
選択理由：やむを得ず選択	7.3	12.9
難易度：大体と全体困難	6.0	15.6
困難理由：程度が高すぎる	6.1	4.3
：する気になれず	5.5	9.0
受講結果：何も得られず	3.6	8.6

美術系	音楽系	心理学系	歴史学系
80.6%	95.5%	93.6%	93.8%
7.3	12.9	3.6	15.5
6.0	15.6	19.3	29.4
6.1	4.3	11.9	12.2
5.5	9.0	6.8	9.4
3.6	8.6	5.9	13.2

以上のように美術系・音楽系と心理学系・歴史学系とを横並びに見てみると、「やむを得ず選択」の数値が高い音楽系・歴史学系は、その講義の内容に程度が高すぎるとする相違があってもなくても、また出席が良くてもそれほどでなくても、美術系・心理学系に対する場合と同じように、「する気になれず」、「何も得られず」が高く現われている。

以上見てきたように、人文科学科目群において、やむを得ず選択した者の場合には、授業内容の程度の高さや出席状況のある程度の落差などを越えて、大体困難、全体困難の比重が次第に大きくなる傾向を示している。このことは、「昨年度調査」においても「社会科学科目群ではやや緩やかな緩和された比重で表われ」、

「自然科学科目群系列Ⅰ（数学、生物学、化学の学系グループ）では、相違がほとんど見られない」が、「人文科学科目群では、やむを得ず選択した者の履修についてどうすべきか、検討する必要がある」と述べておいたが、今回も同様であったことを示している。

(3) 予習・復習

予習・復習の問題は、質問(8)「講義に欠席あるいは遅刻したとき、その後どうしたか」の回答選択肢⑤「特に何もしなかった」、質問(9)「講義で理解できなかった箇所が出てきたとき、どうしたか」の回答選択肢⑤「特に何もしなかった」、質問(10)「講義科目では、自習時間を取ることを想定して単位数が決められている。自習としてどのようなことをしたか」の回答選択肢④「特に何もしなかった」の結果を、以下に掲げる。

	質問(8)⑤	質問(9)⑤	質問(10)④
人文科学科目群	37.3%	52.7%	60.7%
社会科学科目群	30.9	51.7	62.9
自然科学科目群	30.5	44.6	64.2

まず社会科学科目群、自然科学科目群と同様、欠席のアフターケア、理解困難の場合の打開努力、自習する努力などその対応は良くない。社会科学科目群、自然科学科目群と比べて若干の差はみられるものの、何らかの意味を示唆するほどの数値とは認めにくい。ここでは、次に人文科学科目群の各学系の比較をする。

	質問(8)	質問(9)	質問(10)
哲学・思想史系	40.1%	51.5%	58.1%
心理学系	29.1	55.0	63.3
文学系	33.7	53.3	61.6
歴史学系	42.1	53.6	58.6
美術系	21.8	40.6	47.9
音楽系	47.0	53.5	68.2
人文科学全体	37.3	52.7	60.7

美術系では、何もしないとする数値が低く、質問(8)の「ノートを友人に借りて写すようにした」が50.9%を占め、哲学・思想史系、歴史学系の倍、音楽系の4～5倍である。また質問(9)では「関係する図書で調べるようにした」が17.0%であり、質問(10)では「関連する図書や資料を自分で見つけ読んでみたりした」が24.8%と高く、他の学系をしのぐ。

そうした美術系においては、質問(3)における回答選択肢⑤の「簡単に単位が取れそうであった」とした数値が17.6%と音楽系22.1%に次いで高い（この数値だけからすると裏ガイドランスの影響による疑いをもつかも知れないが、その疑いは殆ど不可能であった）。他の科目群や学系では多くても10%程度にとどまることから言えば、その高い数値に特色のあることが理解できる。他方、これと同時に、簡単に単位が取れそうであったにもかかわらず、自然科学科目群並みの高い自習状況を示しているのである。

かくして美術系においては、出席では芳しくないが、「ノートを借りて」などの予習・復習の数値が高く、特に何もしないものの比率が低く、講義の程度は高いとするものが音楽系よりも多く、その音楽系以上に「わかりやすい」とするものが多いのである。また「関係する図書で調べる」なども高く、興味をもてて予習・復習している傾向が推測できるのであるが、こうした読書指導にも通じる課題についてなお具体的な検討を必要とすると思われる。

(4) 授業の内容

授業の内容に関する特徴の理解については、各質問中における++（強くそう思う）と+（そう思う）とのプラスイメージのパーセンテージとその総合科目、社会科学科目群、自然科学科目群との間の順位をみて、考えてみたい。

質問(1)講義の主題テーマの明確さ	78.1%：1位
質問(2)講義内容・説明の体系性	67.4%：1位
質問(3)概念・理論の分かり易い説明	65.1%：1位
質問(4)興味ある内容	70.6%：1位
質問(5)シラバスどおりに進んだ	65.1%：1位
質問(6)各回の授業内容の適当	64.4%：1位
質問(7)教員の話し方	72.0%：1位
質問(8)黒板の使い方	43.8%：2位
質問(9)教材の適切な使用	66.7%：1位
質問(10)学生の反応をみた授業	59.9%：1位
質問(11)教員の熱意	78.3%：1位
質問(12)質問を促し意見に耳を傾け	41.6%：2位
質問(13)得るところがあった	62.1%：1位

以上のように、黒板の使い方と、学生に質問を促し意見に耳を傾けるといふ点が、2位になっているが、そのテーマの明確さ、講義内容・説明の体系的、分り易い説明、興味深さなど講義内容において、また講義のシラバスどおりの進行、時間当たりの扱う量、話し方、教材使用、学生の反応をみた講義という講義の技術において第1位を占めている。これらの結果が、受講学生における「得るところがあったとする高さ」とまた「教員の熱意への評価の高さ」に表われているといえよう。

【社会科学科目群】

社会科学科目群の学系ごとの講義科目数とアンケート回答者数は次のとおりであった。

	講義科目数	回答者数
法 学 系	10	1,708
政 治 学 系	4	361
経 済 学 系	5	514
社 会 学 系	4	375
地 理 学 系	6	791
社会科学全体	29	3,749

この講義科目の受講学生には、新生が84.3%の高率（平均79.9%）を占めていることをまず確認しておきたい。

(1) 授業の難易度の問題

質問(4)の難易度における回答選択肢①「全体としてわかりやすかった」(A)としたものが18.6% (28.5%)であり、人文科学科目群の32.7% (44.7%)や自然科学科目群の12.1% (17.9%)に対して中間的な数値を示している。

視点を変え、大体困難と全体困難との数値の和 (B)を見ると、社会科学科目群の41.7% (27.8%)は、やはり人文科学科目群の28.8% (23.6%)と自然科学科目群の55.6% (41.2%)との中間的な位置を占めており、昨年度の「調査」と同様である。

しかし、社会科学科目群の5つの学系においては一様ではない。

	(A)	(B)
法 学 系	22.3%	36.4%
政 治 学 系	21.6	31.3
経 済 学 系	10.9	59.2
社 会 学 系	10.4	50.6
地 理 学 系	18.2	42.5
社会科学全体	18.6	41.7

上記の数値から、「全体としてわかりやすい」者の比率が高く、「大体困難と全体困難の和」が比較的低いのは法学系と政治学系であり、その反対には経済学系と社会学系がある。地理学系はその中間的で、平均的な数値を示している。

以上をなお人文科学科目群の各学系と比較してみると、法学系・政治学系は文学系・歴史学系に近く、経済学系・社会学系は哲学・思想史系の数値に近い。

次に、今回の社会科学科目群の難易度に関する全体的特色を計る上では次の点が注目される。

質問(5)における「授業でわかりにくい点がでてきた理由は何だと考えますか」の回答⑤「内容に興味を持たず、勉強する気になれなかった」(A)とした者が、15.7%であり、質問(6)の「受講の結果、どのようなものが得られましたか」の回答⑥「特になにも得られなかった」(B)とした者は、18.9%であったことは、既に人文科学科目群での検討で触れたが、この否定的な因子の数値について各学系ごとに検討したい。

	(A)	(B)	時間割上やむなく
法 学 系	12.1%	13.4%	8.7%
政 治 学 系	11.6	12.2	24.4
経 済 学 系	26.8	33.1	30.4
社 会 学 系	15.2	15.2	12.8
地 理 学 系	18.5	26.3	17.7
社会科学全体	15.7	18.9	15.5

先ほどの「全体として分かりやすい」とした者の比率が高く、かつ「大体困難と全体困難」の和が比較的低いのは法学系と政治学系であり、経済学系と社会学系がその反対にあることは既に指摘した。否定的な因子の数値について社会学系ではそれほどでもないが、経済学系では高い数値を示している。「時間割上やむなく」の高いことも一考を要するが、なお出席との関係などを法学系と比較して次に見てみたい。

(2) 出席状況

次に出席状況から難易度、マイナス評価の関連を見ておきたい。

その前提として、大人数の講義が多く、出席をとることをどうすべきか、容易ではないことを認めざるを得ない。

また当初の聴講登録学生数に比較してアンケート回答数の比率の低い学系として、政治学系が45.2%、経済学系が48.7%と目立ったが、その出席状況3分の2以上(①ほぼ全回と②2/3くらい出席の和)と回答した者について各学系別に掲げてみる。

出席3分の2以上回答

法 学 系	91.6%
政 治 学 系	79.5
経 済 学 系	81.7
社 会 学 系	78.7
地 理 学 系	90.9
社会科学全体	87.7

以上を、いくつかの数値とともに昨年度第2学期に調査した法学系と経済学系とのデータも比較のため引用しておこう。ただし、括弧内の数値である。

	法学系	経済学系
出席状況：3分の2以上出席	91.6% (79.3)	81.7% (72.2)
選択理由：やむを得ず選択	8.7 (26.4)	30.4 (39.6)
難易度：大体と全体困難	36.4 (44.2)	59.2 (43.7)
困難理由：程度が高すぎる	11.4 (9.6)	13.4 (9.7)
：する気になれず	12.1 (18.0)	26.8 (17.4)
受講結果：何も得られず	13.4 (19.0)	33.1 (22.9)

以上、出席状況を今年度第1学期と前年度第2学期調査とを比較してみると、法学系においては12.3ポイント、経済学系においても9.5ポイントほど今年度の方が高く、新入生が84.3%を占めている第1学期の状況が浮き彫りとなっている。

今年度は、法学系においてやむを得ざる選択が少なくなり、程度が高すぎるを微増させながら、する気になれず、何も得られず、が減少している。

一方経済学系は、やむを得ず選択、を微減させているが、依然として30%を超える高率となっている。程度が高すぎる、も微増している。その結果、大体困難と全体困難とが相当に増大していると見られ、する気になれず、何も得られず、と回答した者がそれぞれ約10ポイント増大している。

法学系と経済学系との出席状況の差が約10ポイントであるが、経済学系ではアンケート回答者において、法学系よりもプラスに偏って表われていることから、その実際の差は約10ポイントを相当に超える可能性がある。法学系に比較した場合の経済学系におけるマイナス・ポイントについてはなお以下に立ち入って検討する。

経済学系の科目の出し方は、経済学の理論について入門的に講義するものから、現状がどのように分析できるかを講義するものまで幅広く設定して関心のあるものから選択してもらえることをねらった編成をしているという。むろん「興味をもって選択した」が43%で自然科学科目群の物理学系13.9%や数学系23.4%、化学系の29.4%などより高くはあるが、他の学系が60~70%台である中では、如何にも低い。この数値が43.7%と同様の法学系では、時間割の上でやむを得ず選択したものの比率が8.7%で、経済学系の30.4%に比べて随分低い。法学系では、専門との関係で選択したものが27.3%もあるが、経済学系では5.4%と低い。なるほど経済学部では、新入生には教養科目の経済学を取らなくてもよいと指導をしていることが表われている。ここでは経済学に強い関心が期待される経済学部の受講生のデータが含まれていないと予想されるのである。

しかし、なお関心のある経済学の授業科目の選択をねらったとする成果が、かならずしも期待通りに上がっていないことが指摘できる。具体的には月曜4限開講の科目に受講生が集中していたという。今後は、この時間に、経済学科目の複数開講をするなどの改善が必要となろう。

(3) 予習・復習

予習・復習の問題は、まず質問(8)「講義に欠席あるいは遅刻したとき、その後どうしたか」の回答選択肢⑤「特に何もしなかった」、質問(9)「講義で理解できなかった箇所が出てきたとき、どうしたか」の回答選択肢⑤「特に何もしなかった」、質問(10)「講義科目では、自習時間を取ることを想定して単位数が決められています。自習としてどのようなことをしたか」の回答選択肢④「特に何もしなかった」の結果を、以下に掲げる。

	質問(8)⑤	質問(9)⑤	質問(10)④
法学系	25.4%	44.4%	56.8%
政治学系	28.3	52.9	65.1
経済学系	50.4	63.4	68.5
社会学系	22.4	55.5	62.9
地理学系	35.4	57.4	71.3
社会科学全体	30.9	51.7	62.9

この数値の中では、質問(8)の法学系のマイナスポイントが低いことが目立った。ここでは同時に講義の内容を友人に聞くようにしたが22.5%、ノートを友人に借りて写すようにしたが38.8%であったことが顕著である。だがここでも概して自習・復習が積極的に行われる傾向を見出すことはできない。特に質問(10)の単位制に関わる講義科目での個人学習の問題は、課外活動を含む教育課程(カリキュラム)編成の全体的な根本問題であることを強調しておきたい。

(4) 授業の内容

授業の内容に関する特徴の理解については、人文科学科目群の場合と同様に、各質問中におけるパーセンテージとその総合科目、人文科学科目群、自然科学科目群との間の順位をみて、考えてみる。

質問(1)講義の主題テーマの明確さ	66.0% : 4位
質問(2)講義内容・説明の体系性	55.9% : 3位
質問(3)概念・理論の分かり易い説明	53.5% : 2位
質問(4)興味ある内容	54.9% : 3位
質問(5)シラバスどおりに進んだ	51.2% : 4位
質問(6)各回の授業内容の適当	49.8% : 3位
質問(7)教員の話し方	53.0% : 4位
質問(8)黒板の使い方	31.4% : 4位

質問(9)教材の適切な使用	46.4% : 4位
質問(10)学生の反応をみた授業	40.1% : 3位
質問(11)教員の熱意	67.9% : 3位
質問(12)質問を促し意見に耳を傾け	44.5% : 1位
質問(13)得るところがあった	51.3% : 3位

以上のように、質問を促し意見に耳を傾けるという点が1位になっているが、そのテーマの明確さ、講義内容・説明の体系性、分かり易い説明、興味深さなど講義内容において必ずしも高い結果を得ているとは言えない。各回の授業で扱う量、話し方、教材使用、学生の反応をみた講義という講義の技術においても高くはない。これらの結果、受講生における「得るところがあった」とするものが約半数で、1位である人文科学科目群より約10ポイント低い認識は、教員の熱意への評価においても最も高い、人文科学科目群より10ポイントほど低いことに及んでいるとみられる。なお授業内容に関する学生の評価を向上させる取り組みが期待されよう。

4.1.C. 自然科学科目群

自然科学科目群では本年度第1学期に59科目の講義科目が開講された。聴講学生数は6,005名であり、そのうち、4,106名の学生から回答が得られた。実際に評価を与えられた学生は5,063名であり、実質的な回答率は83%である。学系別に見ても、あまり大きなばらつきはなく、すべて、80%前後である。これらは自然科学系総合科目と比較しても回答率は良い。一般に講義科目の中では、自然科学科目群の科目は他の系列に比べて回答率が良い。また、この数値は昨年度と比べても良いが、第1学期と第2学期の科目での差もあるのかもしれない。

一般的な質問での講義の選択理由は全体としては、「内容に興味をもった」が41%と最も多く、次いで、「指定されていた」26%、「時間割の関係」20%、「専門との関連で必要」13%、「一般教養として必要」10%と続く。他の系列と比較すると、「内容に興味をもった」が少ないのが目立つ。これは自然科学科目群の科目が専門の基礎科目としての性格を持つことによる。そしてその度合いによって、この値は大きく傾向が異なる。数学系、統計学系、物理学系、化学系では、

「指定されていた」あるいは、「専門との関連で必要」が最も多く、他方、生物学系、地学系では「内容に興味をもった」が過半数を越す。数学系、統計学系、物理学系、化学系では主に専門への基礎科目としている割合が高く、生物学系、地学系では専門基礎としてではなく、主に興味から聴講していると言える。この選択理由あるいは基礎科目としての度合いの違いは、他の項目に大きな影響を与えている。そこで以後、数学系、統計学系、物理学系、化学系を第1グループ、生物学系、地学系を第2グループとしてまとめて考えて見よう。

難易度について見ると、全体の平均では「全体として分かりやすかった」12%、「全体としてはかなり分かりやすかった」32%、「全体としてはかなり分かりにくかった」34%、「全体として分かりにくかった」21%である。「分かりやすかった」と「分かりにくかった」がほぼ半々であるが、この値は昨年度のアンケート結果より「やさしい」との回答が増えている。しかし、他の系列と比較すると、やはり、一番難しいとの回答結果になっている。この値も第1グループと第2グループでは異なっている。第1グループでは、「分かりにくかった」が60~70%であるが、第2グループでは、「分かりやすかった」が生物学系では48%、地学系では64%となり、だいぶ分かり易くなっている。このように第1グループに比べて第2グループは分かり易くなっているが、それでも他系列に比べれば、やさしい方ではない。

困難理由は全体では「自分の勉強・努力が不足」43%、「基礎知識が不足」40%、「程度が高すぎる」26%、「内容に興味を持てず勉強する気になれなかった」11%の順であるが、第1グループでは、「自分の勉強・努力が不足」、「程度が高すぎる」の順であり、第2グループでは、「基礎知識が不足」、「自分の勉強・努力が不足」と続く。この違いは学問の性格の違いに起因していると思われる。

受講結果について見ると、プラス評価の項目について全体では「教養としての知識・考え方が得られた」26%、「この分野の学問に対して関心が深まった」24%、「専門の準備として役立った」17%、「体系的知識が得られた」15%、「興味を持っていた内容に

関心が深まった」12%である。これも第1グループでは「専門の準備として役立った」が比較的多いに対して、第2グループでは少ない。

一方マイナス評価の項目である「特に何も得られなかった」は全体としては22%ある。これは昨年度の16%と比較して、マイナス評価が増えていることが分かる。この項目も第1グループでは25%前後あるのに対して、第2グループでは、生物学系では20%、地学系では13%と異なっている。

このように難易度や受講結果については、第1グループ、第2グループの違いがあるが、出席についてはあまり違いは無い。「ほぼ全回出席した」71%、「2/3くらいは出席した」22%、「1/2くらいは出席した」5%と続く。この数値は昨年度より良く、前述した今回のアンケートの回答率が昨年度より良いことと符合する。他系列の科目と比較しても、自然科学科目群の科目は出席は良い。

学生の勉学の様子についての回答を見ると、講義に欠席あるいは遅刻したとき、全体では「特に何もしなかった」31%、講義で理解できなかった箇所が出てきたとき、「特に何もしなかった」45%、自習として、「特に何もしなかった」64%であり、この数値は昨年度と大きな違いはない。また自然科学系の総合科目に比べるとこちらの方が少し少ない。しかしいずれにしても、勉強しているとはとても言えない状況にある。この項目については、他科目群の講義科目と比べて少し良いが、大きな違いはない。

授業の内容については、全体としては「授業の主題・テーマが明確であったか」、「体系的であったか」、「わかるように説明がされたか」、「シラバス通りに進められたか」、「教員の話し方は適切であったか」、「教材は適切であったか」、「教員の熱意を感じたか」の項目についてはプラス評価が過半数を超えている。

他方、「興味深かったか」、「授業内容の量は適切であったか」、「黒板の使い方は適切であったか」、「学生の反応を見ながら進めたか」、「学生の意見に耳を傾けようとしていたか」、「得るところがあったか」の項目についてはプラス評価が過半数を割っている。(マイナス評価はそう多くない。)全体としては、自然科学系の授業は教員が一生懸命やっているが、余

り面白くなく、難しく、量も多いということになる。

これらの項目では第1グループ、第2グループの違いがあるものもある。「分かるように説明がされたか」、「興味深かったか」、「得るところがあったか」の項目では、一部例外を除けば、第1グループのプラス評価が過半数を下回るが、第2グループでは過半数を超える。これに対して、「教員の熱意を感じたか」についてはすべての学系でプラス評価が過半数を超えており、自然科学科目群の科目について、教員の熱意だけは押しなべて評価されていると言える。

自然科学科目群の科目を全体としてみると、昨年度より、分かりやすいとの回答が増えているが、依然として他系列に比べて難しい科目群である。出席は他系列に比べて良いが、自習は余りせず、「特に何も得られなかった」との回答は21%に上っている。教員の熱意は評価されているが、幾分の空回りの感もある。他方学系列に見るとかなりの違いが見られ、良い評価を得ている学系もある。学問の性格の違いや、基礎科目としての度合いの違いなどがあり、それらを同じ条件で比較することはできない。しかし、学生の期待と教員の目標とのずれをいかに解消していくか、学生の消極的受講姿勢をいかに改善していくかについては検討していく必要がある。

4.1.D. 情報処理科目群

アンケートの名目的な回答率（聴講登録者に対する割合）は75.1%、実質的な回答率（成績評価対象者に対する割合）は83.6%である。

受講者の所属学部は満遍なく広がっている。入学定員の比率よりも高い学部は医学部と工学部である。

医学部と工学部との入学定員比率はそれぞれ4.3%と22.0%であるが、受講生に占める医学部、工学部所属学生の比率は11.3%、37.3%である。その他の学部では、入学定員の比率よりも、受講者の比率の方が低い。特に低いのは歯学部と経済学部である。歯学部と経済学部との入学定員比率はそれぞれ2.6%と14.1%であるが、受講生に占める歯学部、経済学部所属学生の比率は0.3%、5.4%である。受講率が際だって高いか低い学部では、学生に対する何らかの指導があったものと推察される。

受講生の89.0%は入学年度の学生（第1年次）である。

科目の選択理由で最も多いのは「講義概要を見て」という者で、60.7%に達する。20%の学生が「指定された」という理由を挙げている。講義概要が作成されてから時間は殆ど経過していないが、これが十分その機能を果たしていることが窺える。

講義の難易度については、67.8%、即ち約2/3の学生が「分かり易かった」と回答している。従って適正な難易度の講義であったといえよう。

講義が分かりにくい原因として、「基礎学力不足」と「勉強・努力不足」とを挙げた学生が多く、合わせて78.2%に達する。学生の謙虚な態度には好感がもてる。一方で11.9%の学生が「程度が高すぎる」と言っている。

聴講の結果、「興味を持っている分野に対する関心が深まった」とする者が62.6%いる。また、受講して良かったとする肯定的な選択肢を選んだ者は約90%に達し、教育効果が上がっているといえる。「特に何も得られなかった」とする者は8.8%である。

「ほぼ全回出席した」者が66.2%で、「2/3以上出席した」者と「1/2以上出席した」者とを合わせると97.3%である。ほぼ満足できる出席率といえよう。

欠席あるいは遅刻した際の対応としては、約半数の49.6%が「友人から講義内容を聞き」、17.0%の者が「友人のノートを写して」いる。「担当教員に聞く」のは2.4%と極めて少ないのは当然のことであろう。

理解できない箇所があったときには、「友人に尋ねる」者が圧倒的に多く、58.6%に達する。「担当教員に尋ねる」者が9.4%、「関係する図書等を調べる」者が8.8%である。「特に何もしない」者は16.2%である。友人に聞く者が多く、図書等で調べる者の割合が少ないのは現代学生気質の反映であろうか。

講義科目は自習時間を聴講する時間の2倍とることを前提に単位が設定されているにも拘わらず、自習を全くしない選択肢「特に何もしなかった」と回答した者が約半数49.5%もいることは、真剣に検討する必要があるのではなかろうか。

講義の主題やテーマの明確性、内容の体系性、説明の仕方等、担当教官の講義の進め方に関する設問に対

する回答は、大多数の者が好意的な回答をしている。

自由意見の主なものは次の通りである。受講者過多、教材過多、提出物過多、開講科目数の増加、計算機の増設、既習得レベルによるクラス分け。

4.1.E. 保健体育科目群

(1) 保健体育講義の開講数と聴講者数

平成7年度第1学期の保健体育講義は、6科目開講された。なお、第2学期には8科目開講される。受講学生数は826名であり、アンケート回答率は78.8%（成績評価者数に対しての実質回答率は84.2%）であった。

教育学部、医学部、工学部（2年次学生）が必修であるが、その他の学部は選択である。必修以外の学部の聴講者数では、理学部が最も多く、次いで人文学部、法学部、農学部、経済学部、歯学部の順であった。

聴講者の入学年度については、95年度入学生（1年次）が74.0%、94年度入学生（2年次）が24.4%、その他が1.7%であった。94年度入学生が比較的多いのは、工学部が2年次で必修としているため（94年度入学の聴講者の約60%が工学部学生）である。

(2) 選択の理由

「指定されていた」が最も高く、54.4%であった。次いで「一般教養として必要と思った」14.0%、「その他」が13.1%、「講義概要を見て内容に興味をもった」が12.6%であった。「指定されていた」が高かったのは、教育学部と工学部が必修単位として指定されていたためである。また、「その他」が、他の科目群と比べて著しく高くなっていた理由は、教職単位取得のためと回答している。今後は、この回答項目も加える必要がある。

他の科目群との主な相違点は、「指定されていた」と「その他」が高く、「講義概要を見て内容に興味をもった」の項目が低かった。

(3) 講義の難易度と受講結果

「全体として分かりやすかった」と「分かりにくい点もあったが、全体としてかなり分かりやすかった」の合計は、73.7%であった。これは、他の科目群と比

較して最も高く、全科目群の講義科目全体平均（体育講義も含まれた平均値である）の58.5%より約15%高かった。これらからもおおむね理解しやすい内容であったと言える。また、「分かりやすい点もあったが全体として分かりにくかった」と「全体として分かりにくかった」の合計は、25.9%（全講義科目全体平均は41.3%）であった。

分かりにくい点があった理由（複数回答可）としては、「自分の勉強・努力不足」（27.3%）、「基礎知識の不足」（24.7%）、「内容に興味をもてない」（20.9%）を主な理由としてあげている。これらについて全講義科目全体の平均値と比較すると、「自分の勉強不足」と「基礎知識の不足」は全講義科目全体平均より8~12.8%低く、「内容に興味をもてない」と「やむなく選択」が6.5~8.3%高かった。講義の程度は高すぎることはなく、理解もできる内容であるが、その内容に興味をわかないといった様子が窺える。

しかし、「受講の結果どのようなものが得られたか」（複数回答可）では、「教養としての知識や考え方が得られた」が49.2%と各科目群の中で最も高かった。次いで、「体系的知識がついた」が22.4%であり、これも他の科目群より高かった。一方、「興味をもっていた内容に関心が深まった」や「この分野における学問に対する関心が深まった」等は他の科目群より低い傾向であった。「特に何も得られなかった」の回答は14.3%と多かったが、他の科目群から比較すると低い方であった。授業において何も得ることがなかったということは、残念なことではあるが、その原因や理由について学生も教員も真剣に考えていく必要がある。

(4) 受講の様子

出席率については、「ほぼ全回出席した」が78.5%、「2/3くらいは出席した」が19.7%であり、全科目群の中では最も高かった。

「欠席したときその後どうしたか」については、「ノートを友人から借りた」が51.3%（全科目群平均35.1%）で最も高く、「特に何もしなかった」が23.7%（全科目群平均33.3%）であった。欠席したような場合には何らかの対応をしているように思えるが、「理解できなかった箇所が出てきたときどうしたか」

や「自習としてどのようなことをしたか」については、「特に何もしなかった」が57.0%、77.6%と他の科目群より高かった。

予習、復習はほとんどしない。分からないことがあっても調べるようなことはせず、せめて友人に尋ねる程度であることが言える。このような傾向は他の科目群にも言えることではあるが、保健体育講義は一層この傾向が強いと思われる。

(5) 授業の内容とやり方

「講義の内容は興味のあるものでしたか」については、「強くそう思う」と「そう思う」のプラス評価の合計は56.2%、「強く反対だと思う」と「反対だと思う」のマイナス評価は14.5%であり、人文科学科目群や情報処理科目群は高かったが、保健体育講義は平均的であった。

「主題、テーマの明確さ」や「内容・説明が体系的で整理」、「概念や理論が分かりやすく説明」、「話し方の適切さ」などについては、プラス評価が62.3~71.6%の範囲にあり、おおむね肯定的な評価であった。一方、マイナス評価は、5.6~14.1%の範囲であった。これらは、全科目群平均値とほぼ類似の傾向であった。

また、「教員の熱意」のプラス評価は、77.8%で人文科学科目群の78.3%に次いで高く（全科目群平均70.6%）、マイナス評価は2.9%（全科目群平均4.9%）で最も低く、好意的に評価されていた。一方、「学生の反応を見ながら進められていたか」や「質問を促し、学生の意見に耳を傾けようとしていたか」といった講義のやり方では、いずれも「どちらでもない」が40.6%、47.5%で最も高く、プラス評価は、40.1%、30.6%で質問項目中最も低かった。特に「学生の意見に耳を傾けようとしていたか」は、プラス評価が30.6%で他の科目群（全科目群平均39.4%）と比較してプラス評価が最も低く、マイナス評価が22.0%（全科目群平均16.3%）で最も高かった。全科目群平均でもこの傾向の評価であったが、特に保健体育講義は、どちらかというと教員中心の授業形式であったことが窺える。

「自分の考え方がつちかわれたり、得るところがあったか」については、プラス評価は、58.7%で、情報処理科目群（62.3%）、人文科学科目群（62.1%）に次

いで高かった。マイナス評価は、10.6%であり、全科目群平均の12.7%よりやや低かった。

(6) まとめ

保健体育講義は、学生の出席率は比較的高く、また、教員の熱意もあったが、どちらかと言うと教員中心の授業形式で行われ、その内容はそれほど難しくはなく、分かりやすかったと言える。しかし、試験勉強のためにノート等は整理しておく程度で、普段の勉強は殆どしなかったと思われる。内容に興味がないとして得るものがなかったとする学生も10数パーセントはいるものの、多くは興味のある内容もあり、一般教養的な知識として得るものがあったと評価されていたことが概観できる。

4.2. 実験科目

実験科目の本年度開講科目数は24科目であり、そのうち17科目が第1学期に開講されている。開講されている実験科目全てにおいてアンケート調査が実施された。実験科目の全聴講学生は918名であり、81.9%にあたる752名が回答している。これは他の授業科目と同程度の回答率である。

選択の理由は実験科目全体では「指定されていた」が74.2%で圧倒的に高い。これは聴講している学生がほとんど自然科学系学部にも所属しており、これら実験科目は自然科学系の学部における専門教育の基礎と位置づけられていて、ガイダンスなどで指導されているからであろう。唯一の例外は地学実験で、その選択理由は「講義概要を見て興味をもったから」が77%と他の実験科目と大きく異なっている。また地学実験は聴講している学生の所属学部が広く文科系の学部まで分布しており、地学実験の内容等と合わせてその関連性を調べるのは興味深い。

難易度については、「全体として難しかった」が20.5%、「やさしいテーマもあったが難しい方だった」を加えると60%を超えており、自然科学科目群の講義科目に比べて8ポイント程高い。理由については、「基礎知識の不足」が41.5%、「自分の勉強・努力不足」が37.1%と他の理由に比べて圧倒的に高い。講義科目もこの2つの理由をあげる者が同程度あり、同じ

傾向を示している。

出席の様子については、「全回出席」が93.8%で他の科目群に比べて非常に高い。これはレポートの提出が毎回義務づけられているなどの理由によるものであろう。分からないことが生じたとき、「友人と話し合う」が54.1%と第1位で、「教員に質問する」、「関係する図書で調べる」まで含めると9割を超えており、一般の授業科目に比べてより多くの学生が理解のための努力をしている。予習、復習については、「指導書を読んで予習する」が41.4%、「実験ノートを整理してレポートを書く」が23.3%ある反面、29%の学生が「何もしない」と回答している。教員の熱意については、55.7%の学生が肯定的に評価している。これは一般の授業科目と比べると、15ポイント程低く、授業の実施形態の違いによるものかも知れない。

【実験科目の学科別集計】

ここでは、物理学実験、化学実験、生物学実験そして地学実験の学科別に結果を分析してみよう。先に、全体としての傾向をみてきたので、ここでは個々の実験科目に見られる特徴を比較してみることにする。

受講学生の所属学部については、先にもすこし触れたが、物理学実験、化学実験、生物学実験では学部指定がなされており、自然科学系学部に限られている。これに反し、地学実験では学部指定がなく、農学部が37.7%、理学部が24.6%と理系学部の学生の聴講が多いものの、文系学部の学生もそれぞれ5~12%聴講している。

選択理由については、物理学実験、化学実験、生物学実験の聴講学生は、約8割が「指定されていたから」と回答している。一方、地学実験では、「講義概要をみて興味をもったから」が77%と第1位になっている。地学実験の項目には天体観測が含まれており、それに興味をもつ学生が相当数いることがこの選択理由が多いこと、また聴講学生が全学部的に分布している結果をもたらしていると思われる。

難易度については、物理学実験、化学実験は全体として難しいという回答が多く、地学実験は全体として分かりやすかったと回答した学生が多い。生物学実験はそれらの中間である。特に、化学実験では分かり難

かったという回答が37%もある。難しい理由として、物理学実験、化学実験では、いずれも「自分の勉強・努力不足」が1位で、次いで「基礎知識の不足」が2位となっている。生物学実験、地学実験では「基礎知識の不足」が第1位の理由となっている。地学実験を除いて、「内容に興味をもてない」と回答した学生が10~17%にも達している。

受講の結果については、物理学実験、化学実験では「実験、観測の方法や技術が身についた」、「専門の準備として役立った」という回答が多く、生物学実験では、「方法や技術が身についた」の次に「この分野に対する関心が深まった」が続いている。地学実験では、「興味をもっていた内容に関心が深まった」、「分野に対する関心が深まった」、「方法、技術が身についた」がともに4割となっている。「何も得られなかった」という回答は、地学実験では皆無であるが、他の実験科目では9~14%あり、選択理由の違いを反映した結果を示している。

出席の様子については、物理学実験、化学実験そして生物学実験いずれにおいても「全回出席した」が95%を超えている。一方、地学実験では、「全回出席」は72.1%と他と比べて20ポイント程低い。

自習については、物理学実験、化学実験では9割もしくはそれ以上の学生がなんらかの予習、復習をしている。しかし、生物学実験、地学実験ではともに6割を超える学生が「何もしなかった」と回答している。自習をしている学生が多い物理学実験、化学実験の方が難易度の調査で難しいと回答した割合が多いことに注目すべきであろう。

実験の楽しさについては、物理学実験、化学実験共に「楽しかった」と回答した学生は1割にも満たない。「楽しい」とも「苦痛」とも言えないが同率で、「苦痛であった」が物理学実験では約1割、化学実験においては3割弱に達している。生物学実験では、「楽しかった」が約2割に増加し、「どちらかといえば楽しかった」を加えると6割を超える。地学実験では、「楽しかった」が8割に達しようとしており、「苦痛であった」は皆無である。

講義の内容を理解する上で役立つテーマ、内容であったかとの質問には、物理学実験、化学実験、生物学実

験共に「そう思う」と「どちらとも言えない」がそれぞれ30～40%で、「強くそう思う」は1割かそれ以下である。検討課題の一つであろう。一方、地学実験では「強くそう思う」と「そう思う」を加えると、7割を超える。

実験に要した時間に関する質問には、物理学実験で14.2%、化学実験で37.4%、生物学実験で19.8%、地学実験で23%の学生が大幅に超過したと回答している。

装置や器具の整備や指導書の説明、安全面への配慮を含め実験室の環境はおおむね良好である。

4.3. 情報処理実習科目

アンケートの名目的な回答率（聴講登録者に対する割合）は66.0%、実質的な回答率（成績評価対象者に対する割合）は68.4%である。

この実習を選択した理由は、「計算機の操作はもはや一般常識である」と考えている者が最も多く35.8%に達する。また、「計算機そのものに興味があった」とする者も多く、32.2%である。自由選択制であるから、当然の数字といえる。

実習の難易度は「易しい」、「普通」、「難しい」、それぞれ12.1%、50.4%、36.6%である。易しかったと回答した者にその理由を尋ねたところ、「内容が簡単だった」と答えた者34.0%、「独学等をしていたから」と答えた者30.0%であった。逆に、難しかったと回答した者の場合には、「内容が難しかった」と答えた者が53.6%、「説明や指導が不十分」と答えた者が42.4%に達している。元々の習得レベルに差があると推察されるので、やむを得ない数字ではないかと考えられる。その一方で、既習得レベルに合った内容の実習を用意することの必要性も感ずる。

実習が「有益だった」と回答した者は87.9%であった。難しいと回答していても有益だと感じている者が多数いると言うことである。

実習が有益ではないと回答した者にその理由を尋ねたところ、「全然理解できないから」と言う者が59.1%である。何をしているか訳も分からず実習をしたのでは、有益ではないことは明らかで、うなずける理由ではある。説明や指導が不十分で難しいと感じている受講者が42.4%であったが、これらの受講者に対応す

るには多くの人手を必要とする。

実習で有益だったのは「計算機の操作手順を習得できた」という回答者が圧倒的に多く、56.2%である。

出席状況は概ね良好で、ほぼ毎回出席した者が87.7%である。

「実習時間帯以外に計算機を操作した」経験を持つ者は82.6%に達する。その理由は、「課題が多く、実習時間内には終わることができないから」と答えた者が多く42.0%である。「計算機を操作しなかったから」と答えた者も38.7%いる。これは積極的な学習態度で、歓迎すべきことである。計算機に自由に触れられる時間を拡大する努力も必要ではなからうか。

実習内容や担当教員の対応については、大多数が好意的な回答をしている。

計算機の台数は「受講者の数と同じ程度にすべきだ」と回答した学生が36.3%いる。一方で、「現状のままでやむを得ない」、「現状でよい」と回答した学生もそれぞれ23.5%、21.5%いる。受講者全員が計算機を操作できる環境が理想的であるが、これを現在の設備で実現するためには開講科目数を増加する必要があり、人手を要することになる。

指導者の数は十分であったか否かという問いかけに対し、「十分ではないが現状でやむを得ない」と回答した者が34.9%である。「受講者10名に対して1名の指導者が必要だ」と回答した者が28.1%である。実習の成果を確実なものとするためには、ティーチングアシスタント等、実習補助者の充実を図る必要がある。

習得したいオペレーティングシステムは「MS-DOS」、「Windows」、「Macintosh」、「Unix」、「OS/2」の順で、それぞれ42.4%、36.8%、22.5%、13.1%、3.6%の割合である。MS-DOSが第1位であるのは理解できるが、Windowsが第2位となっているのは、平成7年に発売されたWindows 95が新聞等で大きく報道された影響が大きいのではないだろうか。また、習得したい応用ソフトウェアは「日本語ワードプロセッサ」、「データベース」、「表計算」、「統計」の順で、それぞれ54.2%、24.9%、22.8%、18.2%の割合である。最も実用的で使用頻度の高い日本語ワードプロセッサが第1位であることは非常に自然な結果である。データベース操作を習得したい学生も比較的

多いが、これに応える科目が平成8年度に1科目新設される予定である。

習得したい計算機言語は「Basic」、「Fortran」、「C」、「Cobol」、「Pascal」の順で、それぞれ44.6%、20.8%、18.4%、6.3%、4.8%である。Basicが異常に高い割合となっているのは実習と対になっている講義の内容にBasicが含まれていることによるものと思われる。

オペレーティングシステムと応用ソフトウェアとの操作法については、どちらにも偏することなく、全体として操作法を習得したいという意向が強いように感じられる。最近急激に話題になってきているインターネットについては、「言葉も聞いたことがない」者が14.3%いる反面、「仕組みについて知りたい」者18.4%、「使ってみたい」者22.8%と、興味を持っている者も少なくない。この要望に応える科目が平成8年度から2科目新設される予定である。

自由意見の欄に書かれた主な意見は次の通りである。計算機の増加、少人数制、開講科目数の増加、既習得レベルによるクラス分け、計算機性能の向上、計算機使用可能時間の延長、実習時間帯以外の指導者の常駐、通年開講。

4.4. 外国語科目

本学では外国語科目は通年開講制をとるものが多く、今回調査対象になった科目は、第1学期のみで終了する初修外国語の一部で、内訳はドイツ語3（初級集中〔週4回ネイティブと日本人がそれぞれを担当する、以下同じ〕1、中級2）、フランス語1（初級集中のみ）、ロシア語3（初級集中1、中級2）、中国語2（初級集中1、中級1）の9科目にすぎない。従って、アンケート結果は、個々の授業の特徴がよく出たものになったが、一般的な傾向を示すものが必ずしも得られた訳ではないことを断っておきたい。以下特徴的なもののみを挙げる。

まず質問(4)の難易度については、フランス語を除いて「全体としてかなり分かりやすかった」が47.8～68.6%であったが、フランス語はそれが31.8%に対し「全体としてかなり分かりにくかった」が45.5%と上回っていた。質問(5)の「分かりにくい点が出てきた理

由」に関しては、「自分の勉強、努力が足りなかった」が全科目とも最高で、平均73.2%と高く、学生自身が勉強不足を認めている。質問(6)の「授業のレベル」では、フランス語以外は「ちょうど合っていた」が50.0～68.6%で最高だが、フランス語は「やや高すぎた」が68.2%で最高なのは、上記の質問(4)の難易度と相関しており、質問自体(4)と(6)は重複した面がある。

次に受講の様子についての質問(7)から質問(10)までについて見る。質問(7)の「出席」については、「ほぼ全回出席」54.2%と「4/5くらい出席」26.3%を合わせると80.5%になり、出席しないと授業について行けない外国語の授業の性格を物語っていると思われる。質問(8)の「授業で理解できなかった箇所」についての対処では、ドイツ語とフランス語では「友人にたずねた」が5割以上だが、ロシア語と中国語では「辞書・参考書で調べるようにした」の回答率が一番高い。中国語では「友人にたずねた」が8.6%に対し「辞書・参考書で調べるようにした」が60.0%なのは担当教員の指導によるものか。

「予習」についての質問(9)では回答にばらつきが見られる。授業のレベルが「やや高すぎた」が多かったフランス語では「毎回した」と「時々した」を合わせて90.9%、中国語では85.7%と高いのに対し、ドイツ語とロシア語は「割り当てられたときのみした」と「全然しなかった」を合わせて、それぞれ52.6%と47.8%と高く、さらにドイツ語では「割り当てられたときのみした」が35.5%、ロシア語では「全然しなかった」が34.8%もあるのは、担当教員の教授法の違いを反映していると思われる。質問(10)の「復習」については、全体で5割強が「時々した」に回答はしているものの、45%近くが「全然しなかった」に回答し、問題を含んでいる。

今回の調査結果の集計では初級と中級を合わせて一本で行われたが、初級と中級では教授法と学習法に違いがあるので、次回からは両者を分けて統計をとる必要があると思われる。

教員の授業のやり方について、質問(11)の「進度」では、他の外国語が「適切であった」が65.8～82.9%なのに対し、フランス語だけが「早すぎた」が77.3%と突出しているのは、先の質問(4)と質問(6)の結果の原因

がここにあるのかもしれない。質問(12)の「教員の話し方」、質問(13)の「黒板の使い方等」、質問(14)の「視聴覚教材等の適切な使用」については、学生の不満は少ない。質問(15)の「授業は、学生の反応を見ながら進められているか」に対する回答では、ロシア語と中国語で「強くそう思う」と「そう思う」を合わせてそれぞれ84.8%、80.0%と高いことに注目しなくてはならない。

最後に授業の様子についての質問に移る。質問(16)の「教員の授業に対する熱意」については積極的に評価されている。(17)の「どの能力がついたか」の質問に対する回答では「読む力」が他を圧倒しているが、大学生のレベルではこの力が最も意識されやすいからであろう。問題は、途中でドロップアウトしたものを除いて、「どの力もつかなかった」が13.4%もあることであり、外国語学習嫌いがいることが数字に現れたものと思われる。質問(18)の「異文化理解が深まったか」の質問には「あまり深まらなかった」への回答が中国語を除いて5割以上だったのは意外であった。教材との関連もあると思われるが、教員が特に文化の違いに言及しないと学生の意識に上らないのかもしれない。「かなり深まった」への回答が、ロシア語と中国語で高い。

質問(19)の「講義室の状態」、質問(20)の「学生数」に関しては余り問題はない。質問(21)の「授業以外の学習」に関しては、「何もしていない」が7割弱を占めたのには驚かされる。このテレビ、ラジオ、市販教材と学習手段に事欠かない現状で、かえって学習意欲がわかないという皮肉な実態が見てとれる。質問(22)の授業回数については、今回の調査対象が週4回と1回が混在していることを考えると、有意義な数字が出ているとは思えないので触れないでおく。質問(23)の「今後もこの外国語を学びたいか」については、「続けたい」が66.5%を占めているのは、質問(21)の結果と矛盾するようではあるが、学生の正直な願望とみなしたい。

以上見てきたように、今回のアンケート調査の結果から言えることは、学生側には外国語に対する憧れとといったものはあるものの、実際の授業ではそこそこやって、後は楽をしたい、といった消極的な姿勢が見られ、教員側には授業によってはもっとレベルを考慮し、学生の反応を見ながら授業を進める必要があることが

指摘されたことではないだろうか。いずれにしても、アンケート調査は授業実態をある程度明らかにし、今後の授業改善の資料となることは確かである。

4.5. 体育実技科目

(1) 体育実技の開講数と聴講者数

平成7年度第1学期開講の体育実技は、1年次必修である基礎体育と選択科目であるスポーツが開講されている。基礎体育は47科目、スポーツは24科目の合計71科目が開講された。基礎体育の聴講者数は2,367名、アンケート回答率は90.7%（成績評価者数に対しての実質回答率は91.6%）であった。また、スポーツの受講学生数は729名、アンケート回答率は67.4%（同上実質回答率は81.8%）であった。基礎体育、スポーツの合計では3,093名、アンケート回答率は85.2%（同上実質回答率は89.6%）であった。

各学部における受講状況については、基礎体育は各学部とも1年次学生の殆どが受講しているが、スポーツの全受講生の比率では、理学部が22.4%、法学部が20.4%と他の学部と比較して多くの学生が受講していた。また、各学部の入学定員からの比率からみたスポーツ受講者数では、理学部が56.4%、法学部が35.1%と高く、次いで農学部24.1%、経済学部22.1%、人文学部20.9%、教育学部15.2%、工学部12.4%、歯学部5%、医学部2%の順であった。

聴講学生の入学年度については、基礎体育は1年次必修なので聴講学生の99.2%が95年度入学の1年生であったが、選択であるスポーツでは、94年入学生が47.3%と最も高く、次いで95年入学生が29.7%、93年入学生が18.5%、その他が4.5%であり、2年次学生が約半数で最も多く受講していた。

(2) 選択の理由

基礎体育は、「必修であるため」が87.0%、「単位を取得するため」が22.4%、「運動不足を補うため」が13.9%で、これらが主な受講理由であった。スポーツは、「運動不足を補うため」が52.1%、「スポーツ技術修得のため」が37.3%、「健康体力維持増進のため」が33.4%で、これらが主な理由であった。必修と選択により当然ながら受講理由に相違がみられた。

(3) 受講の様子と受講の結果等

出席率については、「ほぼ全回出席」と「4/5くらい出席」の合計では、基礎体育は93.7%、スポーツは88.2%で出席率は高かった。授業への参加の態度については、「積極的」と「やや積極的」の合計では、基礎体育は77.5%、スポーツは87.6%と学生の参加意欲は高いことが伺える。一方、「やや消極に」と「いやいやながら参加した」と答えた学生は、基礎体育が8.0%、スポーツが3.5%であった。

受講の結果については、「満足」と「どちらかという満足」の合計では、基礎体育が76.8%、スポーツが90.4%であり、スポーツの方が満足感を得ている学生が多い傾向が見られた。その理由としては、「楽しさや爽快感があった」、「身体を十分動かすことができた」、「スポーツや運動技術の上達があった」、「仲間との交流が広がった」などと回答している。一方、「不満」と「どちらかという不満」の合計では、基礎体育が6.7%、スポーツが2.0%であった。その不満の理由には、基礎体育では、「面白くなかった」、「好みのスポーツができなかった」、「自分の体力や技術に見合った内容ではなかった」などをあげており、スポーツでは、「自分の体力や技術に見合った内容ではなかった」、「期待していた内容と違っていた」などであった。

基礎体育は、必修ということもあって出席率はスポーツに比べて高いが、授業への参加の動機、態度、意欲といったものは、スポーツの方が約10%高い。受講の結果の満足度もスポーツの方が14%高い。それに対してマイナス項目の「嫌々ながら」や「消極的態度の参加」は、基礎体育がスポーツよりも4.5%高く、「面白くない」や「劣等感を味わう」といった面も基礎体育がスポーツより6.8%高かった。また受講の結果の不満度も基礎体育がスポーツより4.7%高くなっている。

これらの結果から、基礎体育は出席率は極めて高いが、反面、授業参加の積極的な態度並びに受講結果の満足感などは、スポーツに比べてやや低い傾向となっている。この背景については、基礎体育は全ての学生が受講していることと、学部別にある程度科目が指定されているため、選択の幅が狭められていることにも

よると考えられる。一方、スポーツは自らの選択で受講していることと運動種目が規定されているため目的感が明確に把握しやすいことによる結果であろう。必修、選択の違いや受講の際の動機や目的意識および授業内容の違いによつての結果であったものと推測される。

受講の結果における「体力や健康状態の改善」については、「強くそう思う」と「そう思う」の合計では、基礎体育が43.9%、スポーツが62.7%であり、スポーツの方が約19%高く、差が大きかった。基礎体育の目的としては、体力回復を一つの目的にしていることもあり、もっと高い評価が望まれるところだが、運動量の十分さについての質問では、スポーツの方が十分と答えており、運動量が多いと感じたことから高く評価されたのかもしれない。しかし、「健康、体力の認識の高まり」や「身体運動やスポーツについての新たな知識や考え方を得た」等の評価については、基礎体育はスポーツより若干高いことから、基礎体育は、運動量はややスポーツに劣るものの、将来的な体力、健康といった側面からの演習の内容も含まれる授業であったことがこのような評価となった一因と考えられる。

スポーツ技術の向上については、「強くそう思う」と「そう思う」の合計では、スポーツは64.1%、基礎体育は53.7%であり、当然ながらスポーツの方が高く評価された。

体育実技の授業の一つの特徴として、授業を行っていく際には、協力やコミュニケーションが不可欠である。これに関しての「授業における人間関係、友人関係を高めることができたか」の質問では、基礎体育で78.5%、スポーツで77.2%の学生がそう思うと答えている。そうは思わないと答えた者は2.1~2.6%と少なく、学生は体育の時間において精神的なつながりや人間関係の深まりを期待し、またそのような役割の場とされていることが窺えた。体育実技の意義の一つとして、特に新入生にとっては、重要な視点として評価できると考える。

(4) 授業の様子や教員の授業のやり方等

これらの項目については、おおむね肯定的に評価されていた。「テーマ、目的に添って授業展開がされて

いたか」、「内容は体力や技術に見合った課題であったか」、「全体の運動量は十分であったか」、「授業の準備は用具など含めよく行なわれていたか」、「理解を助けるために示範や補助手段を適切に用いていたか」、「教員が熱意をもっていると感じているか」等については、「強くそう思う」と「そう思う」の合計では、基礎体育は67.1～89.3%、スポーツは70.9～90.7%の範囲の評価であった。これらの中で最も高かった教員の熱意では、基礎体育は89.3%、スポーツは90.7%と高く、肯定的な評価であった。一方、これらの項目の「反対だと思う」と「強く反対だと思う」の合計では、基礎体育は0.8～7.7%の範囲にあり、スポーツは0.5～5.7%の範囲であった。これらの中の高い反対意見である基礎体育の7.7%とスポーツの5.7%は、双方とも「各回の授業、あるいは全体の授業の運動量は十分であったと思うか」の項目であった。これについては、運動量が少なかったのか弱すぎたのか、または多すぎたのか強すぎたのかは、この質問だけではわからない。推測するに運動部等で強い強度の運動をしている人にとっては、運動量としては少ないと感じたり、弱いと感じていたかもしれないし、日頃運動から遠ざかっている人にとっては、強すぎたかもしれないからである。従って、この項目については、ある程度反対意見が多くなることは止むを得ないことであろう。今後、この点を明確にしていく上でも、この内容評価を追加調査していく必要がある。

(5) 基礎体育の意義や内容

基礎体育受講者に対して「基礎体育の意義や内容についてどのように感じているか」を質問した項目では、「適度な運動ができればそれで十分である」と回答した学生が51.8%と最も多く、「健康な学生生活を送るために必要な内容と思った」が34.2%、「将来の健康生活を保つ基礎として必要な内容と思った」が18.4%、「意義を感じられるような内容ではなかった」が4.2%であった。学生は、内容も大切とは思いつつ、時間内において適度な運動ができればよいと考えているようである。また、ごく少数ではあるものの意義を感じられないとしたその理由についても、授業内容の改善と共に検討していく必要がある。

(6) 学生の運動実践の実態

「現在、体育実技の授業以外でどれくらいの運動をやっているか」の質問については、「週5回以上」と「週3～4回実践している」の合計では、基礎体育受講学生は24.6%、スポーツ受講学生は25.0%であった。これらの学生は、日頃運動部等で活動している学生と推察できるが、1、2年次の学生の1/4位は、頻りに運動実践をしていることが窺えた。また、「週1～2回程度」の学生が最も多く、基礎体育は28.2%、スポーツは39.3%であった。「月1～2回」と「何もしていない」の合計では、基礎体育は40.8%、スポーツは31.2%であり、1年生の約4割の学生が、月1～2回の運動かほとんど何もしていないことになる。また、スポーツを選択した学生の方が運動実践をしている傾向が高かったが、その中の普段ほとんど運動をしていない3割の学生は、せめて運動不足を授業でカバーしようとする意図で参加していることが示唆された。

4.6. 日本語科目

教養科目授業改善のためのアンケート調査の対象となる学生は、日本語の場合、学部留学生だけであるので、サンプルが少なすぎて、集計結果の数値のみからはなんとも判断しがたい面がある。そこで、学生が自由に書いたコメント及び学部学生以外で授業を聴講していた科目等履修生、聴講生、研究生、大学院生の回答した数値も参考にしながら分析を進めてみた。

まず、教養科目の日本語の授業は、大学入学以前に日本語を900時間以上学習し、日本語能力試験1級（高度の文法・漢字2,000字・語彙約10,000語習得。大学における学習・研究の基礎としても役立つような日本語能力をもつ）程度の学生が対象である。従って、日本語科目は基礎と応用にわかれているが、目安としては、どちらも上級コースに属する。日本語の授業の目的は、第一に留学生が日本人と同じように授業がよくわかるようになること、第二に日本人と円滑にコミュニケーションができること、第三に日本や日本人に対する理解を深めること、この3点である。これらの目的が達成できたかどうかをアンケートの20、21、22で質問している。授業を提供する側としては、日本語の授業が三つの目的を全て達成して欲しいと考えている

が、集計結果からは、第一に掲げた他講義や授業がわかりやすくなったという目的達成度が他の二つの目的達成度と比べてやや低いようにみられる。その一方で、他の講義や授業がわかりやすくなったという目的がよく達成できたと回答した授業をみると、第三の目的の達成度がやや低くなっている。現在、日本語の授業は、言語の四技能（よむ・かく・きく・はなす）を基本にして、A－読解、B－作文、C－会話の3種類を提供しているが、このような分類ではなく、たとえば、ノートテイキングやゼミ発表におけるプレゼンテーションの技術と、専門にこだわらない日本及び日本人理解のための教養的日本語などのように分類して提供することを検討していくべきではないかと思った。専門科目を理解するための道具としての日本語ということについて、専門教科の先生の講義を録画して、日本語の授業で使ったりして、取り組み始めているが、これは今後の大きな課題である。

次に、集計結果で気づいた点は、宿題がやや多すぎたと答えている学生が多いことである。そして、宿題は日本語の学習に大変役に立ったと答えている学生も多い。その反面、予習、復習が不十分だったと答えている学生が多い。これらのことから、教師が手とり足とり教えるのではなく、学生自身が疑問点や学習方法を見い出して、学生自身で学習していくという自律的学習方法を身につけさせるよう指導を変えていくべきではないかと感じた。

以上、二つが、今後授業改善をしていく上で重要な点であると思われる。

なお、1クラスの受講者数は10名前後であるので、クラスサイズとしてはよい環境にあり学生も教師も満足している。

5. まとめと今後の取り組み

今回のアンケート集計は第1学期（前期）のみであり、昨年度試行的に実施したのが第2学期（後期）であるため今回の結果と簡単に比較することはできない。また、科目の種別によっては実施科目数が少ないものもあり、全科目についての傾向を掴むには資料不足であるので、まえがきでも述べたところであるが、第2

学期（後期）のアンケート結果と合わせて資料を整え分析を深めて、本年6月には本報告としてまとめて公表する予定としている。しかし、実施授業科目数の多い科目群では第1学期のみでも一定の傾向を読み取ることができた。

個々の授業についてのアンケート回答の集計結果は、教員アンケートの回答によれば、学生の傾向を知る上で有効であり、教員の意図とのズレや学生に理解させるポイントの様なものが分かる、改善すべき示唆が多い、技術的な点でなるほどと思う点があるなど参考になるとの声が多かった。特に、自由意見は傾聴すべきものが多く、学生から提出のあったアンケート回答用紙を手元に残しておきたいとの声もあった。一方、学生に対する不信の意見、真面目に回答に取り組んでいない、出席の悪いものは授業評価などやる資格がない等の声もある。20%位の学生は不真面目で無責任な回答しかしないとの指摘があったが、全員が真面目で誠実に答えるようであれば、今日の大学教育における問題点は違ったものになるのではないかと思う。教師からの学生批判をきちんと学生に伝えよとの意見があったが、授業の中で批判すべきことをきちんと述べないのであろうかと疑問に思った。

アンケート結果の活用について、担当者個人が受けとめて授業改善のために生かすことは当然として、教員集団あるいは大学として組織的にどう活用すべきかについて、担当教員の間で議論する場がないとの意見があったが、誰かがやってくれるのではなく、担当者自身が場を作ることを含めてその気になって取り組まない限り与えてくれるものでは無いと思う。結局は教員の意識の問題で、学生の言動を通じて学ぶべきことは何かを見い出し得ることが必要であるとの意見があったが、同感である。組織的検討の一つの方法として同一教科内で教員同士が教育改善を議論する際の資料として活用することが考えられ、物理学教員集団の取り組みが大教センターニュース第1号に紹介されているが参考にして有効な使い方等を検討していただきたい。アンケート結果は、しかるべき機関で分析を行い、その分析結果に基づき具体的な検討課題を策定し、関係の科目群・学系に提示し検討を依頼する、該当の学系では同一教科の教員集団で検討し回答するというよう

な方式をとることが必要なかもしれない。

学生の勉学状況を学生の自己評価から見ると、講義科目では60%以上の学生が授業時間だけの聞きっぱなしに終わり、何も自習をしていない。「学生があまりにも受け身であり消極的である。一寸でも理解できない点があると、それを理解するための努力をしようとせず、その様な話は予想外であってけしからんと言うような反応をする。」との意見があった。現代の学生

はテレビでも見る様な気持ちで授業に出ているのであろうか。授業内容をきちんと理解するにはやはり勉強する必要があるのは自明のことで、その意欲を起こさせる授業が必要ということであろう。それとも強制的に勉強するように仕向けるのであろうか。相手の聴講目的にもよるので、その辺を区別して考える必要があろう。

別表

平成7年度第1学期 授業改善のためのアンケート調査実施状況

新潟大学大学教育開発研究センター

授業形態	科目群	学系	開講科目数	調査実施科目数	調査対象学生数	調査回答数	回答率(%)	実質回答率(%)	
講義科目	総合科目群	人文科学系	3	3	300	196	65.3	87.5	
		社会科学系	4	4	692	325	47.0	57.8	
		自然科学系	14	14	3,043	1,860	61.1	73.5	
		計	21	21	4,035	2,381	59.0	71.8	
	人文科学科目群	哲学・思想史系	8	7	1,014	649	64.0	85.2	
		心理学系	8	6	910	615	67.6	72.5	
		文学系	8	8	1,368	670	49.0	62.1	
		歴史学系	8	8	1,374	802	58.4	73.1	
		美術系	3	3	209	165	78.9	93.8	
		音楽系	4	4	753	443	58.8	63.6	
	社会科学科目群	法学系	10	10	2,552	1,708	66.9	77.4	
		政治学系	4	4	798	361	45.2	56.8	
		経済学系	5	5	1,055	514	48.7	67.7	
		社会学系	4	4	653	375	57.4	69.6	
		社会学系	6	6	1,234	791	64.1	72.6	
		計	29	29	6,292	3,749	59.6	71.7	
	自然科学科目群	数学系	13	13	1,192	835	70.1	79.8	
		統計学系	5	5	482	299	62.0	76.5	
		物理学系	10	10	875	631	72.1	76.9	
		化学系	11	11	711	510	71.7	84.9	
		生物学系	11	11	1,262	847	67.1	84.7	
地学系		9	9	1,483	984	66.4	81.8		
情報処理科目群	情報処理概論系	4	4	893	671	75.1	83.6		
	計	4	4	893	671	75.1	83.6		
	保健体育科目群	体育講義系	6	6	826	651	78.8	84.2	
		計	6	6	826	651	78.8	84.2	
	日本語・日本事情	日本事情	1	1	4	4	100.0	100.0	
		計	1	1	4	4	100.0	100.0	
	合 計		159	156	23,683	14,906	62.9	75.1	
	演習科目	人文科学科目群	哲学・思想史系	2	2	36	30	83.3	85.7
			その他	1	1	17	14	82.4	93.3
計			3	3	53	44	83.0	88.0	
日本語・日本事情		日本事情	1	1	6	4	66.7	66.7	
		計	1	1	6	4	66.7	66.7	
合 計		4	4	59	48	81.4	85.7		
実験科目	自然科学科目群	物理学系	5	5	302	232	76.8	91.3	
		化学系	5	5	305	257	84.3	86.8	
		生物学系	5	5	216	202	93.5	94.0	
		地学系	2	2	95	61	63.2	81.3	
合 計		17	17	918	752	81.9	89.5		
情報処理実習科目	情報処理科目群	情報処理概論系	5	5	626	413	66.0	68.4	
	計	5	5	626	413	66.0	68.4		
外国語科目	外国語科目群	ドイツ語	3	3	101	76	75.2	83.5	
		フランス語	1	1	30	22	73.3	81.5	
		ロシア語	3	3	74	46	62.2	76.7	
		中国語	2	2	53	35	66.0	87.5	
合 計		9	9	258	179	69.4	82.1		
体育実技科目	保健体育科目群	体育実技系	47	47	2,367	2,147	90.7	91.6	
		基礎体育	47	24	729	491	67.4	81.8	
		スポーツ							
合 計		71	71	3,096	2,638	85.2	89.6		
日本語科目	日本語・日本事情	日本語	6	6	21	21	100.0	100.0	
		計	6	6	21	21	100.0	100.0	
合 計		271	268	28,661	18,957	66.1	77.3		

(注) 回答率は調査対象学生(聴講登録者)に対する調査回答数の割合であり、実質回答率は実際に成績評価を受けた学生に対する調査回答数の割合である。

授業改善のためのアンケート（学生による授業評価）

－ 講 義 科 目 －

新潟大学では教育改善の検討を行っています。このアンケートはそのための一環として行うもので、授業に対する学生諸君の評価・意見等に基づいて、授業の改善や教員の教育能力の向上に役立てることを目的とするものです。このアンケートの結果がこの目的以外の成績評価などに使用されることはありません。

選択肢の中で当てはまるものを選択し、マークシートの該当の番号の上下の点をHBの黒鉛筆で正確に「線」で結んでマークしてください。

選択肢が「++ + 0 - --」になっている場合は、次のことを表しています。

「++」は、「強くそう思う」

「+」は、「そう思う」

「0」は、「どちらでもない」

「-」は、「反対だと思う」

「--」は、「強く反対だと思う」

なお、特に意見・感想のない場合にはその質問に答える必要はありませんので、マークシートの該当欄は空白にしておいてください。

まず準備としての質問です。

(1) どの学部にも所属していますか。（在籍番号の最初のアルファベットです）

H, P, L, E, S, M, D, T, A

(2) 入学年はいつですか。（在籍番号の最初の2, 3番目の数字です）

95, 94, 93, 92, 91, 90, 89, 88

一般的な質問です。

(3) この講義を選択した理由は何ですか。（複数回答可）

①講義概要を見て内容に興味をもった ②指定されていた
③専門との関連で必要だと思った ④一般教養として必要だと思った ⑤簡単に単位が取れそうだった ⑥時間割の関係で選択せざるをえなかった ⑦その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）

(4) この講義の難易度は、あなたにとってどうでしたか。

①全体としてわかりやすかった。 ②わかりにくい点もあったが、全体としてかなりわかりやすかった ③わかりやすい点もあったが、全体としてかなりわかりにくかった ④全体としてわかりにくかった

(5) 受講してわかりにくい点が出てきた理由は何だと考えますか。（複数回答可）

①講義の程度が高すぎる ②受講に要求される基礎知識が不足していた（高校での未履修等による） ③自分の勉強、努力が足りなかった ④単位取得のためやむなく選択した ⑤内容に興味ももてず勉強する気になれなかった ⑥その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）

(6) 受講の結果、どのようなものが得られましたか。（複数回答可）

①興味をもっていた内容に関心が深まった ②この分野の学問に対する関心が深まった ③体系的知識が身についた ④専門の準備として役立った ⑤教養としての知識や考え方が得られた ⑥特に何も得られなかった ⑦その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）

あなたの受講の様子について質問します。

(7) どのくらいこの講義に出席しましたか。

①ほぼ全回出席した ②2/3くらいは出席した ③1/2くらいは出席した ④ほとんど出席しなかった

(8) 講義に欠席あるいは遅刻したとき、その後どうしましたか。

①講義の内容を友人に聞くようにした ②ノートを友人に借

りて写すようにした ③担当教員に聞くようにした ④時には友人あるいは担当教員に聞くとか、ノートを友人に借りて写したこともある ⑤特に何もしなかった

(9) 講義で理解できなかった箇所が出てきたとき、どうしましたか。

①友人にたずねた ②担当教員に質問するようにした ③関係する図書で調べるようにした ④時には友人にたずねるとか、担当教員に質問するとか、関係する図書で調べたこともある ⑤特に何もしなかった

(10) 講義科目では、自習時間をとることを想定して単位数が決められています。自習としてどのようなことをしましたか。

①指定の図書や資料を読んでみたりした ②関連する図書や資料を自分で見つけ読んでみたりした ③ノートを書き直して整理した ④特に何もしなかった

この授業の内容について質問します。

(11) 講義の主題・テーマが明確で、その趣旨にそって進められましたか。

++ + 0 - --

(12) 講義の内容・説明が体系的で整理されていましたか。

++ + 0 - --

(13) 講義の中でいろいろな概念や理論がわかるように説明されましたか。

++ + 0 - --

(14) 講義の内容は興味あるものでしたか。

++ + 0 - --

(15) 講義概要（シラバス）のとおりに進められましたか。

++ + 0 - --

(16) 各回の講義、あるいは全体の授業の内容は量的に適切でしたか。

++ + 0 - --

この授業のやり方について質問します。

(17) 教員の話し方（早さ、声の大きさ、明瞭さ等）は適切でしたか。

++ + 0 - --

(18) 黒板の使い方、板書の文字は適切でしたか。

++ + 0 - --

(19) 視聴覚教材・プリント・教科書等は適切に使用されていましたか。

++ + 0 - --

(20) 講義は、学生の反応を見ながら進められていると思いましたか。

++ + 0 - --

この授業の様子について質問します。

(21) 教員が講義に熱意をもっていると感じましたか。

++ + 0 - --

(22) 教員が学生の質問を促し、学生の意見に耳を傾けようとしていましたか。

++ + 0 - --

(23) この講義により、自分の考え方がつちかわれたり、得るところがありましたか。

++ + 0 - --

(24) 講義室の状態や学生数などの環境は適切でしたか。

++ + 0 - --

その他次の事項について、マークシートの裏面に自由に書いてください。

(25) この講義で良かったと思う点をあげてください。

(26) この講義で良くなかったと思う点をあげてください。

(27) この講義をより良いものにするには、どうすればよいと思いますか。

(28) その他、開講希望科目や設備などに対する意見を含めて、自由に書いてください。

授業改善のためのアンケート（学生による授業評価）

－演習科目－

新潟大学では教育改善の検討を行っています。このアンケートはそのための一環として行うもので、授業に対する学生諸君の評価・意見等に基づいて、授業の改善や教員の教育能力の向上に役立てることを目的とするものです。このアンケートの結果がこの目的以外の成績評価などに使用されることはありません。

選択肢の中で当てはまるものを選択し、マークシートの該当の番号の上下の点をHBの黒鉛筆で正確に「線」で結んでマークしてください。

選択肢が「++ + 0 - --」になっている場合は、次のことを表しています。

「++」は、「強くそう思う」

「+」は、「そう思う」

「0」は、「どちらでもない」

「-」は、「反対だと思う」

「--」は、「強く反対だと思う」

なお、特に意見・感想のない場合にはその質問に答える必要はありませんので、マークシートの該当欄は空白にしておいてください。

まず準備としての質問です。

- (1) どの学部に所属していますか。（在籍番号の最初のアルファベットです）
H, P, L, E, S, M, D, T, A
- (2) 入学年はいつですか。（在籍番号の最初の2, 3番目の数字です）
95, 94, 93, 92, 91, 90, 89, 88

一般的な質問です。

- (3) この演習を選択した理由は何ですか。（複数回答可）
①講義概要を見て内容に興味をもった ②指定されていた
③専門との関連で必要だと思った ④一般教養として必要だと思った ⑤簡単に単位が取れそうだった ⑥時間割の関係で選択せざるをえなかった ⑦その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）
- (4) この演習の難易度は、あなたにとってどうでしたか。
①全体としてわかりやすかった。 ②わかりにくい点もあったが、全体としてかなりわかりやすかった ③わかりやすい点もあったが、全体としてかなりわかりにくかった ④全体としてわかりにくかった
- (5) 受講してわかりにくい点が出てきた理由は何だと考えますか。（複数回答可）
①演習の程度が高すぎる ②受講に要求される基礎知識が不足していた（高校での未履修等による） ③自分の勉強、努力が足りなかった ④単位取得のためやむなく選択した ⑤内容に興味ももてず勉強する気にならなかった ⑥その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）
- (6) 受講の結果、どのようなものが得られましたか。（複数回答可）
①興味をもっていた内容に関心が深まった ②この分野の学問に対する関心が深まった ③発表・討論の仕方及び調べ方などが身についた ④専門の準備として役立つ ⑤教養としての知識や考え方が得られた ⑥特に何も得られなかった ⑦その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）

あなたの受講の様子について質問します。

- (7) どのくらいこの演習に出席しましたか。
①ほぼ全回出席した ②4/5くらいは出席した ③2/3くらいは出席した ④2/3以下しか出席しなかった
- (8) 演習に欠席あるいは遅刻したとき、その後どうしましたか。
①演習の内容を友人に聞くようにした ②ノートを友人に借りて写すようにした ③担当教員に聞くようにした ④時には友人あるいは担当教員に聞くとか、ノートを友人に借りて

写したこともある ⑤特に何もしなかった

- (9) 演習で理解できなかった箇所が出てきたとき、どうしましたか。
①友人にたずねた ②担当教員に質問するようにした ③関係する図書で調べるようにした ④時には友人にたずねるとか、担当教員に質問するとか、関係する図書で調べたこともある ⑤特に何もしなかった
- (10) 発表のための準備や他の発表者への質疑・討論の準備のためにどのようなことをしましたか、最も適切なものを一つ選んで下さい。
①主に指定の図書や資料を読んでみたりした ②主として関連する図書や資料を自分で見つけ読んでみたりした ③主としてレジュメやノートを書き整理し、準備した ④発表のとき以外特に何もしなかった

この授業の内容について質問します。

- (11) 演習の主題・テーマが明確で、その趣旨にそって進められましたか。
++ + 0 - --
- (12) 演習の中で出てきたいろいろな概念や理論がわかるように説明されましたか。
++ + 0 - --
- (13) 演習の内容は興味あるものでしたか。
++ + 0 - --
- (14) 演習では、あなたは質疑や発言をするなど積極的に参加しましたか。
++ + 0 - --
- (15) 演習では、質疑が活発に行われるなど討論に引き込まれましたか。
++ + 0 - --
- (16) 講義概要（シラバス）のとおりに進められましたか。
++ + 0 - --

この授業のやり方について質問します。

- (17) 教員の話し方（早さ、声の大きさ、明瞭さ等）は適切でしたか。
++ + 0 - --
- (18) 発表の仕方、司会の仕方などについて教員による示唆や指導が適切に行われましたか。
++ + 0 - --
- (19) 教員が一方的に演習を進めるのではなく、学生がイニシアティブをもって進めていましたか。
++ + 0 - --
- (20) 視聴覚教材・プリント・テキストの使用は適切でしたか。
++ + 0 - --

この授業の様子について質問します。

- (21) 教員が演習に熱意をもっていると感じましたか。
++ + 0 - --
- (22) 教員が学生の発言を促し、学生の意見に耳を傾けようとしていましたか。
++ + 0 - --
- (23) この演習により、自分の考え方がつちかわれたり、得るところがありましたか。
++ + 0 - --
- (24) 演習室の状態や学生数などの環境は適切でしたか。
++ + 0 - --

その他事項について、マークシートの裏面に自由に書いてください。

- (25) この演習で良かったと思う点をあげてください。
- (26) この演習で良くなかったと思う点をあげてください。
- (27) この演習をより良いものにするには、どうすればよいと思いますか。
- (28) その他、開講希望科目や設備などに対する意見を含めて、自由に書いてください。

授業改善のためのアンケート（学生による授業評価）
— 実験科目 —

新潟大学では教育改善の検討を行っています。このアンケートはそのための一環として行うもので、授業に対する学生諸君の評価・意見等に基づいて、授業の改善や教員の教育能力の向上に役立てることを目的とするものです。このアンケートの結果がこの目的以外の成績評価などに使用されることはありません。

選択肢の中で当てはまるものを選択し、マークシートの該当の番号の上下の点をHBの黒鉛筆で正確に「線」で結んでマークしてください。

選択肢が「++ + 0 - --」になっている場合は、次のことを表しています。

- 「++」は、「強くそう思う」
「+」は、「そう思う」
「0」は、「どちらでもない」
「-」は、「反対だと思う」
「--」は、「強く反対だと思う」

なお、特に意見・感想のない場合にはその質問に答える必要はありませんので、マークシートの該当欄は空白にしておいてください。

まず準備としての質問です。

- (1) どの学部にも所属していますか。(在籍番号の最初のアルファベットです)
H, P, L, E, S, M, D, T, A
- (2) 入学年はいつですか。(在籍番号の最初の2, 3番目の数字です)
95, 94, 93, 92, 91, 90, 89, 88

一般的な質問です。

- (3) この実験を選択した理由は何ですか。(複数回答可)
①講義概要を見て内容に興味をもった ②指定されていた
③専門との関連で必要だと思った ④一般教養として必要だと思った ⑤簡単に単位が取れそうだった ⑥時間割の関係で選択せざるをえなかった ⑦その他(マークシートの欄に具体的に記入してください)
- (4) この実験の難易度は、あなたにとってどうでしたか。
①全体としてやさしかった ②難しいテーマもあったがやさしい方だった ③やさしいテーマもあったが難しい方だった ④全体として難しかった
- (5) 受講してわかりにくい点が出てきた理由は何だと考えますか。(複数回答可)
①内容の程度が高すぎる ②受講に要求される基礎知識が不足していた(高校での未履修等による) ③自分の勉強、努力が足りなかった ④指導書、あるいは教員の説明が不十分であった ⑤内容に興味ももてず、やる気が起きなかった ⑥その他(マークシートの欄に具体的に記入してください)
- (6) 受講の結果、どのようなものが得られましたか。(複数回答可)
①興味をもっていた内容に関心が深まった ②この分野の学習に対する関心が深まった ③実験技術、自然観察、データ処理の方法等が身についた ④専門の準備として役立った ⑤教養としての知識、方法及び自然(現象)への接し方が身についた ⑥特に何も得られなかった ⑦その他(マークシートの欄に具体的に記入してください)

あなたの受講の様子について質問します。

- (7) どのくらいこの実験に出席しましたか。
①ほぼ全回出席した ②4/5くらいは出席した ③2/3くらいは出席した ④2/3以下であった
- (8) 実験を進めるに当たってわからないことが出てきたとき、どうしましたか。
①友人と話し合うようにした ②担当教員に質問するように

した ③関係する図書で調べるようにした ④時には友人と話し合うとか、担当教員に質問するとか、関係する図書で調べたこともある ⑤特に何もしなかった

- (9) 実験科目では、かなりの予習、復習が必要です。自習としてどのようなことをしましたか。
①指導書を読んで実験の目的、方法等を予習した ②関連する図書や資料を自分で見つけ読んでみたりした ③実験ノートを整理してレポートを書いた ④教科書や関連する図書を参考にして結果について考察した ⑤特に何もしなかった
- (10) この実験を楽しく行うことができましたか。
①楽しんで行うことができた ②どちらかという楽しかった ③どちらかという苦痛だった ④苦痛だった

この授業の内容について質問します。

- (11) 実験の目的や方法等が明確で、スムーズに実験を進めることができましたか
++ + 0 - --
- (12) 実験のテーマや内容は適切でしたか。
++ + 0 - --
- (13) 関連する講義の内容を理解し、自然科学の方法を学ぶ上で役立つテーマや内容でしたか。
++ + 0 - --
- (14) 実験の目的に沿う、予想された結果が得られましたか。
++ + 0 - --
- (15) この実験科目を履修して実験に関する知識や技術が養われましたか。
++ + 0 - --
- (16) 将来、自分の専門分野の学習に役立つと思いますか。
++ + 0 - --

この授業のやり方について質問します。

- (17) 時間内に終了する実験内容でしたか。
++ + 0 - --
- (18) 装置や器具等は整備されており、正常に作動しましたか。
++ + 0 - --
- (19) 指導書の説明は適切でしたか。
++ + 0 - --
- (20) 安全面の配慮は適切でしたか。
++ + 0 - --

この授業の様子について質問します。

- (21) 教員は実験指導に当たって熱意を持っていると感じましたか。
++ + 0 - --
- (22) 実験を進める上で自分の創意工夫が生かされましたか。
++ + 0 - --
- (23) 実験室の状態や受講学生数などの環境は適切でしたか。
++ + 0 - --
- (24) 受講後は自然あるいは自然現象に対して親しみが増しましたか。
++ + 0 - --

その他次の事項について、マークシートの裏面に自由に書いてください。

- (25) この実験科目を履修して特に良かったと思う点と改良すべき点をあげてください。
- (26) 特に興味をもった点、特に苦勞した点をあげてください。
- (27) この実験をより良いものにするには、どうすればよいと思いますか。また、どんな実験がしてみたいですか。
- (28) その他意見があれば、自由に書いてください。

追加質問

- (29) 高校では理科のどの科目を履修しましたか。(複数回答可)
①物理 ②化学 ③生物 ④地学 ⑤理科I ⑥その他
- (30) 大学入試センター試験ではどの科目を受験しましたか。(複数回答可)
①物理 ②化学 ③生物 ④地学 ⑤理科I

授業改善のためのアンケート（学生による授業評価）
—情報処理実習科目—

新潟大学では教育改善の検討を行っています。このアンケートはそのための一環として行うもので、授業に対する学生諸君の評価・意見等に基づいて、授業の改善や教員の教育能力の向上に役立てることを目的とするものです。このアンケートの結果がこの目的以外の成績評価などに使用されることはありません。

選択肢の中で当てはまるものを選択し、マークシートの該当の番号の上下の点をHBの黒鉛筆で正確に「線」で結んでマークしてください。

選択肢が「++ + 0 - --」になっている場合は、次のことを表しています。

- 「++」は、「強くそう思う」
- 「+」は、「そう思う」
- 「0」は、「どちらでもない」
- 「-」は、「反対だと思う」
- 「--」は、「強く反対だと思う」

なお、特に意見・感想のない場合にはその質問に答える必要はありませんので、マークシートの該当欄は空白にしておいてください。

まず準備としての質問です。

(1) どの学部・学部に所属していますか。（在籍番号の最初のアルファベットです）

H, P, L, E, S, M, D, T, A

(2) 入学年はいつですか。（在籍番号の最初の2, 3番目の数字です）

95, 94, 93, 92, 91, 90, 89, 88

一般的な質問です。

(3) この実習を選択した理由は何ですか。（複数回答可）

- ① 計算機そのものに興味があった
- ② 専門との関係で計算機の操作が必要と感じた（将来も含めて）
- ③ 計算機の操作はもはや一般常識だと思った
- ④ 単位が簡単に取れそうだった
- ⑤ 時間割の関係で選択せざるを得なかった
- ⑥ 講義と対になっているので選択せざるを得なかった
- ⑦ 指定あるいは推奨されていた
- ⑧ その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）

(4) この実習の難易度は、どうでしたか。

- ① 易しかった
- ② 普通
- ③ 難しかった

(5) 第4番の質問で①と答えた人は、その理由を回答してください。（複数回答可）

- ① 以前に教育機関（中学・高校など）で計算機教育を受けたから
- ② 独学あるいはパソコンセミナーなどで勉強していたから
- ③ 実習で覚えることが少なかったから
- ④ 実習の内容自体が簡単なものだったから
- ⑤ 計算機の操作が面白いので
- ⑥ その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）

(6) 第4番の質問で③と答えた人は、その理由を回答してください。（複数回答可）

- ① 説明や指導が不十分であったから
- ② 覚えることが多すぎたから
- ③ 内容が難しくついていけないから
- ④ 計算機に興味を持てなかったから
- ⑤ 計算機の数が不足していたから
- ⑥ その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）

(7) この実習は有益でしたか。

- ① 非常にためになった
- ② ためになった
- ③ あまりためにならなかった
- ④ 全くためにならなかった

(8) 第7番の質問で③或いは④と答えた人は、その理由を回答してください。（複数回答可）

- ① 計算機の操作を習得すること自体に意味がないと感じたから
- ② 自分が使える計算機と実習の計算機とが全く異なっていたから
- ③ 全然理解できなかったから
- ④ 計算機の数が少なくて実習できなかったから
- ⑤ その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）

(9) 実習で有益だったのはどんなことですか。（複数回答可）

- ① 計算機の操作手順
- ② 計算機の動作原理
- ③ アプリケーション（応用）プログラムの使い方
- ④ プログラミング
- ⑤ その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）

あなたの受講の様子について質問します。

(10) この実習にどのくらい出席しましたか。

- ① ほぼ毎回出席した
- ② 半分程度は出席した
- ③ ほとんど出席しなかった

(11) 実習時間以外にも計算機を操作していましたか。

- ① 実習時間以外では操作したことはない
- ② 実習時間以外も少しは操作したことがある
- ③ 実習時間以外に操作する時間

が正規の実習時間と同程度である

④ 実習時間以外に計算機を操作している方が多い

(12) 第11番の質問で③或いは④と答えた人は、その理由を回答してください。（複数回答可）

- ① 計算機の台数が不足しているから
- ② 実習時間は多くて落ち着いて計算機を操作できないから
- ③ 課題が多いため、実習時間内に終わることができないから
- ④ 実習と関係なく計算機を操作したかったから
- ⑤ その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）

この授業の内容について質問します。

(13) 実習の目的等が明確で、スムーズに実習を行うことができましたか。

- ++ + 0 - --

(14) 実習のテーマや内容は適切でしたか。

- ++ + 0 - --

(15) 講義概要（シラバス）のとおりに進められましたか。

- ++ + 0 - --

この授業のやり方等について質問します。

(16) プリント・テキストの使用は適切でしたか。

- ++ + 0 - --

(17) 教員が実習に熱意をもっていると感じましたか。

- ++ + 0 - --

(18) 解説あるいは課題の説明と実習時間の配分はどうでしたか。

- ① 適当であった
- ② 実習時間を長くする方がよい
- ③ 実習時間を短くする方がよい

(19) 計算機の台数に対する受講者数は適切でしたか。

- ① 受講者数は計算機の台数と同じ程度にすぎない
- ② 受講者数は計算機の台数の2倍程度にすぎない
- ③ 現状のままでよい
- ④ やむを得ない
- ⑤ 現状のままでよい

(20) 指導者の数は十分でしたか。

- ① 十分ではないが現状のままでよい
- ② 操作に慣れるまでは受講者10名に対し1名程度の指導者が必要だ
- ③ 操作に慣れるまでは受講者20名に対し1名程度の指導者が必要だ
- ④ 現状のままでよい
- ⑤ その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）

計算機実習一般について質問します。

(21) 習得あるいは習熟したいオペレーティングシステムは次のどれですか。（複数回答可）

- ① UNIX
- ② MS-DOS
- ③ Windows
- ④ OS/2
- ⑤ Macintosh
- ⑥ その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）

(22) 習得あるいは習熟したいアプリケーション（応用）プログラムは次のどれですか。（複数回答可）

- ① 日本語ワードプロセッサ
- ② 表計算
- ③ 統計
- ④ データベース
- ⑤ その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）

(23) 習得あるいは習熟したい計算機言語は次のどれですか。（複数回答可）

- ① FORTRAN
- ② COBOL
- ③ PASCAL
- ④ C
- ⑤ BASIC
- ⑥ その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）

(24) オペレーティングシステムとアプリケーションプログラムの操作法のうち、どちらに重点を置いた方がよいですか。

- ① オペレーティングシステムの操作法に重点を置いた方がよい
- ② アプリケーションプログラムの操作法に重点を置いた方がよい
- ③ どちらも言えない
- ④ 両方を半々ずつがよい
- ⑤ その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）

(25) 計算機の操作を習得するためには、どのような形態が望ましいと思いますか。

- ① 計算機を自由に操作できる環境があれば授業は必要ない
- ② 単位と関係なく回数程度のセミナーを頻りに開いて欲しい
- ③ 現在のように教養科目として実習を行って欲しい
- ④ 学部・学科の専門科目として実習を開講して欲しい
- ⑤ その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）

(26) インターネットについて質問します。

- ① 言葉も聞いたことがない
- ② 言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない
- ③ 仕組みについて知りたい
- ④ 使ってみたい
- ⑤ その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）

(27) インターネットについて質問します。

- ① 言葉も聞いたことがない
- ② 言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない
- ③ 仕組みについて知りたい
- ④ 使ってみたい
- ⑤ その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）

(28) インターネットについて質問します。

- ① 言葉も聞いたことがない
- ② 言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない
- ③ 仕組みについて知りたい
- ④ 使ってみたい
- ⑤ その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）

(29) インターネットについて質問します。

- ① 言葉も聞いたことがない
- ② 言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない
- ③ 仕組みについて知りたい
- ④ 使ってみたい
- ⑤ その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）

(30) インターネットについて質問します。

- ① 言葉も聞いたことがない
- ② 言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない
- ③ 仕組みについて知りたい
- ④ 使ってみたい
- ⑤ その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）

(31) インターネットについて質問します。

- ① 言葉も聞いたことがない
- ② 言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない
- ③ 仕組みについて知りたい
- ④ 使ってみたい
- ⑤ その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）

(32) インターネットについて質問します。

- ① 言葉も聞いたことがない
- ② 言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない
- ③ 仕組みについて知りたい
- ④ 使ってみたい
- ⑤ その他（マークシートの欄に具体的に記入してください）

授業改善のためのアンケート（学生による授業評価）
—外国語科目—

新潟大学では教育改善の検討を行っています。このアンケートはそのための一環として行うもので、授業に対する学生諸君の評価・意見等に基づいて、授業の改善や教員の教育能力の向上に役立てることを目的とするものです。このアンケートの結果がこの目的以外の成績評価などに使用されることはありません。

選択肢の中で当てはまるものを選択し、マークシートの該当の番号の上下の点をHBの黒鉛筆で正確に「線」で結んでマークしてください。

選択肢が「++ + 0 - --」になっている場合は、次のことを表しています。

「++」は、「強くそう思う」

「+」は、「そう思う」

「0」は、「どちらでもない」

「-」は、「反対だと思う」

「--」は、「強く反対だと思う」

なお、特に意見・感想のない場合にはその質問に答える必要はありませんので、マークシートの該当欄は空白にしておいてください。

まず準備としての質問です。

(1) どの学部にも所属していますか。(在籍番号の最初のアルファベットです)

H, P, L, E, S, M, D, T, A

(2) 入学年はいつですか。(在籍番号の最初の2, 3番目の数字です)

95, 94, 93, 92, 91, 90, 89, 88

一般的な質問です。

(3) この授業を選択した理由は何ですか。(複数回答可)

- ①講義概要を見て内容に興味をもった ②指定されていた
③専門との関連で必要だと思った ④一般教養として必要だと思った
⑤簡単に単位が取れそうだった ⑥時間割の関係で選択せざるをえなかった ⑦先輩・友人達のすすめによる
⑧教員がネイティブだから ⑨さらに学力を伸ばしたいと思った
⑩その他(マークシートの欄に具体的に記入してください)

(4) この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか。

- ①全体としてわかりやすかった。 ②わかりにくい点もあったが、全体としてかなりわかりやすかった ③わかりやすい点もあったが、全体としてかなりわかりにくかった ④全体としてわかりにくかった

(5) 受講してわかりにくい点が出てきた理由は何だと考えますか。(複数回答可)

- ①授業内容の程度が高すぎる ②授業に要求される基礎知識が不足していた(高校での未履修等の理由も含む) ③自分の勉強、努力が足りなかった ④単位取得のためやむなく選択した ⑤授業内容に興味をもてず、勉強する気になれなかった ⑥その他(マークシートの欄に具体的に記入してください)

(6) この授業のレベルは、あなたにとってどうでしたか。

- ①高すぎた ②やや高すぎた ③ちょうど合っていた ④やや低すぎた ⑤低すぎた

あなたの受講の様子について質問します。

(7) どのくらいこの授業に出席しましたか。

- ①ほぼ全回出席した ②4/5くらいは出席した ③2/3くらいは出席した ④2/3以下しか出席しなかった

(8) 授業で理解できなかった箇所が出てきたとき、どうしましたか。

- ①友人にたずねた ②担当教員に質問するようにした ③関係する辞書・参考書で調べるようにした ④特に何もしなかった

(9) 予習について質問します。

- ①毎回全範囲を予習した ②時々した ③自分が割り当てられたときのみした ④全然しなかった

(10) 復習について質問します。

- ①毎回復習した ②時々した ③全然しなかった

この授業のやり方について質問します。

(11) 各回の授業の進度は適切でしたか。

- ①早すぎた ②適切であった ③遅すぎた

(12) 教員の話し方(早さ・声の大きさ・明瞭度等)は適切でしたか。

++ + 0 - --

(13) 黒板の使い方、板書の文字は適切でしたか。

++ + 0 - --

(14) 視聴覚教材(音声テープ・ビデオテープ等)・プリント・教科書等は適切に使用されていましたか。

++ + 0 - --

(15) 授業は、学生の反応を見ながら進められていると思いませんか。

++ + 0 - --

この授業の様子について質問します。

(16) 教員が授業に熱意を持っていると感じましたか。

++ + 0 - --

(17) この授業により、自分のどの外国語能力がついたと考えますか。(複数回答可)

- ①聴く力 ②話す力 ③読む力 ④書く力 ⑤どの力もつかなかった

(18) この授業を受講して「異文化理解」が深まったと思いませんか。

- ①大いに深まった ②かなり深まった ③あまり深まらなかった

(19) 講義室の状態(広さ・清潔さ・机や椅子の状態・照明など)は適切でしたか。

++ + 0 - --

(20) 聴講学生数は適切でしたか。

- ①多すぎた ②適切だった ③少なすぎた

(21) この授業に関連して、授業以外にどんな学習をしましたか。(複数回答可)

- ①テレビ ②ラジオ ③自習用教材 ④会話学校 ⑤海外研修 ⑥留学生やネイティブの知り合いとの交流を通じて ⑦何もしなかった

(22) この外国語の授業は一週間に何回が適当だと思いますか。

- ①4回 ②3回 ③2回 ④1回 ⑤0回

(23) 今後も、なんらかの形で、この外国語を学び続けたいと思いませんか。

- ①ぜひ続けたい ②できれば続けたい ③わからない ④続けたくない

その他次の事項について、マークシートの裏面に自由に書いてください。

(24) この授業で良かったと思う点をあげてください。

(25) この授業で良くなかったと思う点をあげてください。

(26) この授業をより良いものにするには、どうすればよいと思いませんか。

(27) 反省点も含めて、その他の意見があれば自由に書いてください。

授業改善のためのアンケート（学生による授業評価）
－体育実技科目－

新潟大学では教育改善の検討を行っています。このアンケートはそのための一環として行うもので、授業に対する学生諸君の評価・意見等に基づいて、授業の改善や教員の教育能力の向上に役立てることを目的とするものです。このアンケートの結果がこの目的以外の成績評価などに使用されることはありません。選択肢の中で当てはまるものを選択し、マークシートの該当の番号の上下の点をHBの黒鉛筆で正確に「線」で結んでマークしてください。

選択肢が「++ + 0 - - -」になっている場合は、次のことを表しています。

- 「++」は、「強くそう思う」
 「+」は、「そう思う」
 「0」は、「どちらでもない」
 「-」は、「反対だと思う」
 「--」は、「強く反対だと思う」

なお、特に意見・感想のない場合にはその質問に答える必要はありませんので、マークシートの該当欄は空白にしておいてください。

まず準備としての質問です。

- (1) どの学部にも所属していますか。(在籍番号の最初のアルファベットです)
 H, P, L, E, S, M, D, T, A
 (2) 入学年はいつですか。(在籍番号の最初の2, 3番目の数字です)
 95, 94, 93, 92, 91, 90, 89, 88
 (3) 性別
 ①男子 ②女子

受講した理由と受講の様子について質問します。

- (4) 体育実技を受講した理由は何ですか。(複数回答可)
 ①必修であったため ②単位を取得するため ③運動不足を補うため ④健康・体力の維持、増進のため ⑤スポーツの技術を習得するため ⑥身体運動やスポーツに関する知識を得るため ⑦その他(マークシートの欄に具体的に記入してください)
 (5) どのくらいこの授業に出席しましたか。
 ①ほぼ全回出席した ②4/5くらいは出席した ③2/3くらいは出席した ④2/3以下しか出席しなかった
 (6) あなたのこの授業への参加の態度はどうだったと思いますか。
 ①積極的に参加したと思う ②やや積極的に参加したと思う ③どちらともいえない ④やや消極的に参加したと思う ⑤いやいやながら参加したと思う
 (7) あなたにとって体育実技の時間はどのような時間でしたか。(複数回答可)
 ①運動の楽しさを味わえる時間 ②気分転換、開放感をもたらす時間 ③運動不足解消や健康・体力増進のための時間 ④仲間との交流・ふれあいの時間 ⑤運動するのがおっくうで面白くない時間 ⑥劣等感を味わういやな時間 ⑦その他(マークシートの欄に具体的に記入してください)
 (8) 受講の結果はどうでしたか。
 ①満足だった ②どちらかという満足だった ③どちらともいえない ④どちらかという不満だった ⑤不満だった
 (9) 第8番の質問で①或いは②と答えた人は、その理由を回答してください。(複数回答可)
 ①楽しさや爽快感があった ②身体を十分動かすことができた ③スポーツや運動技術の上達があった ④健康や運動・スポーツに関する新たな知識を得た ⑤体力測定などで自己の体力の診断ができた ⑥仲間との交流が広がった ⑦その他(マークシートの欄に具体的に記入してください)
 (10) 第8番の質問で④或いは⑤と答えた人は、その理由を回答してください。(複数回答可)
 ①期待していた内容と違っていた ②好みのスポーツができなかった ③健康や運動・スポーツに関する新たな知識が得られなかった ④自分の体力や技術に見合った内容でなかった ⑤面白くなかった ⑥特に得るものはなかった ⑦その他(マークシートの欄に具体的に記入してください)

受講の結果どのようなものが得られたかを質問します。

- (1) 体力や健康状態が改善されましたか。
 ++ + 0 - - -
 (2) 自分の身体の健康や体力についての認識が高まりましたか。
 ++ + 0 - - -

- (13) スポーツ技術が向上しましたか。
 ++ + 0 - - -
 (14) 身体運動やスポーツについての新たな知識や考え方を得ることができましたか。
 ++ + 0 - - -
 (15) 授業における人間関係、友人関係を高めることができましたか。
 ++ + 0 - - -
この授業の様子について質問します。
 (16) 各回の授業のテーマ、目的が示され、それにそって展開されましたか。
 ++ + 0 - - -
 (17) 授業の内容は体力や技術に見合った課題であったと思いますか。
 ++ + 0 - - -
 (18) 学生の理解度や達成度を見ながら授業が進められていましたか。
 ++ + 0 - - -
 (19) 各回の授業、あるいは全体の授業の運動量は十分であったと思いますか。
 ++ + 0 - - -
 (20) 講義概要(シラバス)の内容を含んだ授業が進められていましたか。
 ++ + 0 - - -
 (21) 授業の準備は、用具、設備等を含め毎回よく行われていると感じましたか。
 ++ + 0 - - -
 (22) 学生の理解を助けるために、自らの示範や補助手段(資料、板書等)を適切に用いていましたか。
 ++ + 0 - - -
 (23) 教員が授業に熱意をもっていると感じましたか。
 ++ + 0 - - -

基礎体育について質問します。〔この基礎体育の設問(24), (25), (26)については、スポーツ・応用体育の受講者は答える必要はありません〕

- (24) 基礎体育は学部毎のクラス指定で行っていますが、このクラス編成についてどう感じましたか。(複数回答可)
 ①現在のやり方で特に問題はない ②学部指定の中でももっと選択に余裕をもてるクラス編成にしてほしい ③在籍番号等によるクラス指定にしてほしい ④指定以外の制限でも受講できるようにしてほしい ⑤男女別クラスにしてほしい ⑥その他(マークシートの欄に具体的に記入してください)
 (25) 基礎体育の意義や内容についてどのように感じましたか。(複数回答可)
 ①健康な学生生活を送るためには必要な内容と思った ②将来の健康生活を保つ基礎として必要な内容と思った ③適度な運動ができればそれで充分である ④意義を感じられるような内容ではなかった ⑤その他(マークシートの欄に具体的に記入してください)
 (26) 受講人数(定員)について質問します。
 ①多すぎる ②適切な人数である ③少なすぎる

スポーツ種目について質問します。

- (27) 開講されている、いないにもかかわらずやってみたいスポーツは何ですか。(複数回答可)
 ①陸上競技 ②水泳 ③体操 ④卓球 ⑤テニス ⑥バドミントン ⑦バレーボール ⑧バスケットボール ⑨ハンドボール ⑩ソフトボール ⑪サッカー ⑫ラグビー ⑬ゴルフ ⑭剣道 ⑮柔道 ⑯スキー ⑰アイススケート ⑱キャンプ ⑲登山 ⑳サイクリング ㉑アーチェリー ㉒ホッケー ㉓ダンス ㉔ニュースポーツ ㉕その他(マークシートの欄に具体的に記入してください)

運動・スポーツ実践について質問します。

- (28) 現在、あなたは体育実技の授業以外でどれくらい運動を行っていますか。
 ①週5回以上 ②週3～4回 ③週1～2回 ④月1～2回 ⑤何もしない

その他次の事項について、マークシートの裏面に自由に書いてください。

- (29) この授業で良かったと思う点をあげてください。
 (30) この授業で良くなかったと思う点をあげてください。
 (31) この授業をより良いものにするには、どうすればよいと思いますか。
 (32) その他意見があれば、自由に書いてください。

授業改善のためのアンケート（学生による授業評価）

－日本語科目－

新潟大学では教育改善の検討を行っています。このアンケートはそのための一環として行うもので、授業に対する学生諸君の評価・意見等に基づいて、授業の改善や教員の教育能力の向上に役立てることを目的とするものです。このアンケートの結果がこの目的以外の成績評価などに使用されることはありません。

選択肢の中で当てはまるものを選択し、マークシートの該当の番号の上下の点をHBの黒鉛筆で正確に「線」で結んでマークしてください。

選択肢が「++ + 0 - --」になっている場合は、次のことを表しています。

- 「++」は、「強くそう思う」
- 「+」は、「そう思う」
- 「0」は、「どちらでもない」
- 「-」は、「反対だと思う」
- 「--」は、「強く反対だと思う」

なお、特に意見・感想のない場合にはその質問に答える必要はありませんので、マークシートの該当欄は空白にしておいてください。

- (1) どの学部にも所属していますか。(在籍番号の最初のアルファベットです)
H, P, L, E, S, M, D, T, A
- (2) 入学年はいつですか。(在籍番号の最初の2, 3番目の数字です)
95, 94, 93, 92, 91, 90, 89, 88
- (3) 教室のおおきさは適切でしたか。
①大きすぎた ②やや大きすぎた ③適切 ④やや小さすぎた ⑤小さすぎた
- (4) 受講者数は、何人ぐらいがのぞましいとおもいますか。
①2～5人 ②6～10人 ③11～15人 ④16～20人
- (5) 90分であつかう授業の量は適当でしたか。
①多すぎた ②やや多すぎた ③適量 ④やや少なすぎた ⑤少なすぎた
- (6) 授業の内容は、学期はじめに期待したとおりのものでしたか。
①十分期待どおりのものだった ②まあまあ期待どおりのものだった ③やや期待はずれだった ④まったく期待はずれだった
- (7) 教室内の教師の声(おおきさ・スピード)は、ききとりやすかったですか。
①ききとりやすかった ②まあまあききとりやすかった ③ややききとりにくかった ④ききとりにくかった
- (8) 毎回だされる宿題の量は適当でしたか。
①多すぎた ②やや多すぎた ③適量 ④やや少なすぎた ⑤少なすぎた
- (9) あなたの予習の程度は十分でしたか。
①十分 ②まあまあ十分 ③やや不十分 ④不十分
- (10) あなたの復習の程度は十分でしたか。
①十分 ②まあまあ十分 ③やや不十分 ④不十分
- (11) 授業の構成は適切でしたか。
++ + 0 - --
- (12) 音声テープ・ビデオなどのつかい方は適切でしたか。
++ + 0 - --

- (13) 文法説明は適切でしたか。
++ + 0 - --
- (14) 小テスト(クイズ)の実施方法は適切でしたか。
++ + 0 - --
- (15) 小テスト(クイズ)は日本語の学習に役にたちましたか。
++ + 0 - --
- (16) 宿題は日本語の学習に役にたちましたか。
++ + 0 - --
- (17) 教員の説明はわかりやすく適切でしたか。
++ + 0 - --
- (18) 教員はすべての学生に対して公平でしたか。
++ + 0 - --
- (19) この授業では、(聞く/話す/読む/書く)力をやしなうことをめざしていましたが、授業を聴講した結果、学期はじめとくらべて自分の(聞く/話す/読む/書く)力がのびたとおもいますか。
++ + 0 - --
- (20) 日本語の授業を聴講した結果、他の講義や演習がわかりやすくなりましたか。
++ + 0 - --
- (21) 日本語の授業を聴講した結果、日本人とのコミュニケーション能力がのびましたか。
++ + 0 - --
- (22) 日本語の授業を聴講した結果、日本や日本人に対する理解がふかまりましたか。
++ + 0 - --
- (23) クラスの友達からよい刺激をうけることができましたか。
++ + 0 - --
- (24) 授業で使用した教材の中でどの教材が興味ぶかかったですか。興味ぶかかった順に三つ書いてください。(マークシートの裏面に記入してください)
- (25) 授業で使用した教材の中でどの教材が役にたちましたか。役にたった順に三つ書いてください。(マークシートの裏面に記入してください)
- (26) 日本語の授業についての意見・希望・感想など自由に書いてください。(マークシートの裏面に記入してください)
- (27) その他、日本語の授業以外のことについて、意見・希望・感想など自由に書いてください。(マークシートの裏面に記入してください)